

TOKYO URBAN TECH

工学院大学

校友会報

2014 vol.135



校友新宿キャンパスに集合しよう！

∞全校友と埼玉大会の絆を強く!∞



盆栽美術館(さいたま市)

我が母校の
先輩・後輩・
仲間と集おう！
未来に向かって
話そう！



時の鐘(小江戸川越)

第17回

工学院大学校友会 全国大会・埼玉大会

平成26年10月18日(土)

【参加費】

会員8,000円 同伴者/家族 5,000円 学生 3,000円

式典当日

- **プロローグ**(10:30～12:00 新宿キャンパス)
クラス・クラブ・研究室‘会’・支部等の懐かしい顔に会おう！
- **式典**(13:00～13:35 アーバンテックホール)
- **講演**(13:45～14:45 アーバンテックホール)
テーマ：澁澤栄一の起業家精神／講演者：澁澤雅英氏(澁澤栄一記念館理事長)
澁澤栄一 埼玉県生誕、幕末の幕臣・ヒューマニズムのある我が母校と関わりが深い官僚・実業家
- **記念パーティ**(15:00～17:00 アトリウム)
和太鼓・軽音楽・大抽選会

【プロローグ開催要領】

校友同士の集いの場

1. 同期会
2. クラス会
3. クラブの集まり
4. 研究室の集まり
5. 趣味の集まり
6. 支部の集まり など

新企画

● **夜の小江戸・川越まつり**(2次会を兼ねて！)(希望者)

● **オプションツアー**[10月19日(日)](鉄道博物館・盆栽美術館・小江戸等)

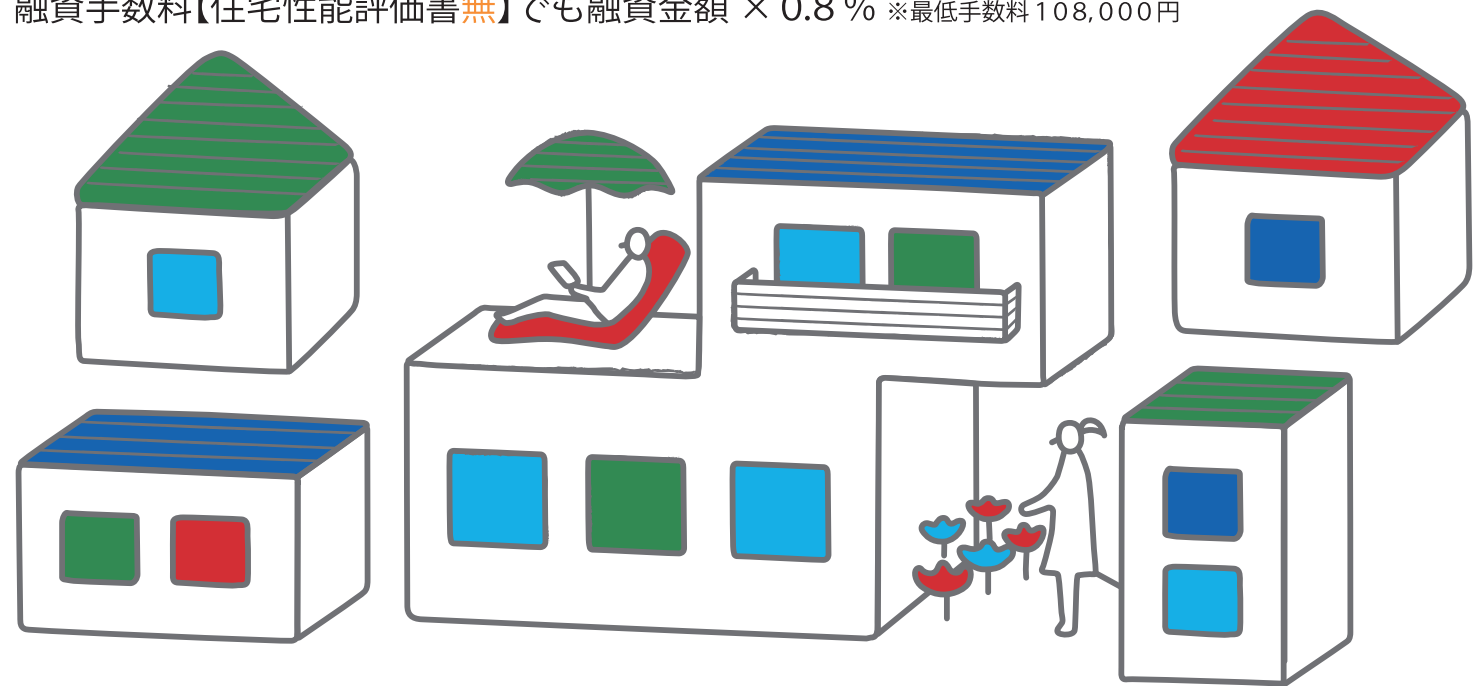
参加のお申し込みは

- 平成26年7月31日(木)までに、
- 同封されている振込用紙に必要事項をご記入の上、参加費をお振り込みください。
- プロローグで「集まり」を持たれたい方は、校友会事務局
(Eメール：jimukyoku@kogakuin.or.jp、電話：03-3342-2064)までご連絡ください。
「集まり」のご案内は、校友会ホームページ(<http://www.kogakuin.or.jp>)に掲載します。
- ご不明な点がございましたら、校友会事務局までお問い合わせください。

金利と手数料で選べば 優良住宅ローンの 【フラット35】

融資手数料【住宅性能評価書有】なら融資金額 × 0.5% ※最低手数料108,000円

融資手数料【住宅性能評価書無】でも融資金額 × 0.8% ※最低手数料108,000円



お得な【フラット35】Sのご案内

【フラット35】S / 【フラット35】をお申込みのお客様が省エネルギー性、耐震性などに優れた住宅を取得される場合に【フラット35】のお借入金利を一定期間引き下げる制度です。

金利引下げプラン	引下げ幅・期間	融資率の上限	お申込み期限
【フラット35】S (金利Aプラン)	当初10年間 年▲0.3%	10割	※詳しくは、下記ホームページをご覧ください。
【フラット35】S (金利Bプラン)	当初5年間 年▲0.3%	10割	※詳しくは、下記ホームページをご覧ください。

【フラット35】の住宅ローンに関する詳しい内容はこちら <http://yuryoloan.jp/>

株式会社 優良住宅ローン
貸金業 関東財務局長(3)第01443号 日本貸金業協会会員番号:003153

代表取締役社長 田野邊幸裕
(建築学科1969年卒業)

TEL(03)6457-7572
〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目3番12号 壺丁目参番館5階

●【フラット35】Sとは、省エネルギー性、耐震性などに優れた住宅を取得される場合に、【フラット35】のお借入金利を一定期間引き下げる制度です。詳しい利用条件については次のHPで御確認下さい。http://www.yuryoloan.jp/flat35s/flat35s.pdf ●【フラット35】Sは、住宅ローンのお借換えの場合には利用できません。 ●【フラット35】Sには予算金額があり、予算金額に達する見込みとなった場合は、受付を終了させていただきます。 ●弊社または住宅金融支援機構の審査の結果によっては、お客さまのご希望にそえない場合がありますので、あらかじめご了承ください。 ●お借入れの対象となる住宅及びその敷地に、住宅金融支援機構を抵当権者とする第1順位の抵当権を設定していただきます。抵当権の設定費用(登録免許税、司法書士報酬等)はお客さまのご負担となります。 ●お借入額3000万円、お借入年数35年、元利均等返済、お借入金利1.81%の場合、実質年利は1.834%~1.848%となります。 ●返済方式は元利均等返済または元金均等返済となり、返済回数は119回~419回、遅延損害金は14.5%となります。

来校の節は是非お立ち寄り下さい。懇親会も出来ます。
これからも宜しくお願いします。



新宿キャンパス7階の食堂
(懇親会は8階ファカルティクラブでも開催可能)

新宿食堂部 Tel.03-3348-0147



八王子キャンパス学生センター
800席の広い食堂

八王子食堂部 Tel.042-626-3782

工学院大学学園生活協同組合

本部Tel.03-3346-3240 FAX03-3342-0980

e-mail:seikyo@kucoop.or.jp http://www.univcoop.jp/kogakuin



輝きに包まれるか、温もりに抱かれるか。

高級ガレージドア「威風動々」はデザイン性の高い3色!

高級感漂うフラットパネルでオーバーライダータイプのガレージドア「威風動々」は、メタリックで斬新なステンカラー、シャープな光沢がまぶしいシルバー、和洋どちらにもマッチする木目調の3色。住宅外壁とよく調和して建物の外観を引き立てます。

- スピーディな開閉
- 障害物検知と指はさみ防止構造で安全性向上
- 侵入抵抗時間5分以上の高い防犯性能

防火設備* (準遮炎性能/認定番号EC-0042)
*ステンカラーとシルバーの1台用に限ります。

アルミフラットガレージドア

いふうどうどう



ステンカラー/シルバー/木目調



三和シャッター工業株式会社

〒175-0081 東京都板橋区新河岸2-3-5

http://www.sanwa-ss.co.jp/

Tel. 03-3346-3011

顧問 渡辺 静雄 (電気工学科:昭和39年卒 空手道部OB)



くつろぎ、味わい、楽しむ。

ホテルのあたたかさ
感じてください。



京王フラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1
TEL. (03) 3344-0111
<http://www.keioplaza.co.jp/>

JR・私鉄・地下鉄「新宿駅(西口)」「西新宿駅」より徒歩5分
都営大江戸線「都庁前駅」B1出口すぐ



電気設備 設計施工
太陽光発電システム・オール電化設備
設計施工
介護予防通所介護施設

牧野電設工業株式会社

代表取締役 牧野 光洋 (1979年 専門学校電気科卒)

■本社(代表)
TEL/03-3313-2511
FAX/03-3313-2509



■甲府営業所
TEL/055-268-6016



■ショールーム
TEL/03-6454-6601



■元気広場 梅里
TEL/03-6383-2406
FAX/03-6383-2407



URL <http://www.makino-dk.co.jp/>

株式会社 デーマグ

当社は 1990年創立で、
『地球環境を大切に』をモットーとし、
資源、エネルギーを守り、
自然環境に貢献する
磁気装置の専門会社です。

- *商品紹介：1. 永久磁石式アルミニウム溶解炉攪拌機
：2. 選択帯電型静電選別装置
：3. その他 1). 廃棄物関係 12種類
2). 水関係 7種類
3). 大気関係など

- *特許件数：59件
*主な取引先：新日鐵、トヨタ自動車、東芝など
*海外支社：米国・中国・韓国
*海外工場：中国杭州(2005年に中国との合弁会社
設立：資本1億・社長：高橋謙三)

CAD設計技術者および開発技術者募集

何なりとお気軽にご相談下さい。とにかくアクセスしてみてください。

所在地：〒277-0941 千葉県柏市高柳1143-3 (東武野田線・高柳下車徒歩3分)
代表取締役 高橋 謙三(本学機械工学科1970年卒)

sales@zmag.co.jp

TEL: 04-7193-1620 FAX: 04-7193-1621

ゆとり有る豊かな

主な商品

- 電気部品材料(各種電気接点およびクラッド材料)
- 電子部品材料(金ボンディングワイヤー、封止材、各種ペースト)
 - 触媒(燃料電池、脱臭)
- 貴金属化合物(自動車排気ガス浄化触媒、めっき浴)
 - 各種めっき浴およびめっき装置
- 各種産業用白金製品(ガラス関係装置、理化学機器用製品)
 - 医療関係(制癌剤用白金族化合物、マーカー)
- 各貴金属リサイクル(使用済み製品より貴金属回収・精製)

身近な使用例

携帯電話の機能で、バイブレーターがあります。
4ミリ位のモーターを使用しています。
そこに使用されている小さなブラシはほとんど弊社のものです。

田中貴金属グループ



TANAKA
KIKINZOKU
GROUP

田中貴金属工業株式会社

〒100-6422 東京都千代田区丸の内2丁目7-3
東京ビルディング22階
TEL (03) 6311-5511(代表)
☎ 0120-266011
URL: http://www.tanaka.co.jp

な 社 会 の 実 現 へ の 貢 献

Acoustic Solution Partner



FOSTER

フォスター電機株式会社
FOSTER ELECTRIC CO., LTD.

〒196-8550 東京都昭島市つつじが丘一丁目1番109号
Phone 042-546-2311 Fax 042-546-2317 URL <http://www.foster.co.jp/>

知的財産ビジネスの専門職集団
特許業務法人



太陽国際特許事務所

所長・弁理士・博士（工学） 中島 淳 （S44機械卒・H14大学院電気電子卒）

【機械建築担当弁理士】	福田浩志（副所長） 永田淳一 御橋優子*	高橋尚子* 上野敏範* 鴨志田伸一	清武史郎* 河野元浩* 澤田修孝 加藤雅嗣 百瀬尚幸 宮本治彦 竹村勝年 都野真哉* 早瀬貴介	堀江千鶴* 内田英男 井上義美 大塚映美 美濃好美* 大松崎明子 田中宏明 上條由紀子* 長野みか*	坂手英博* 中村 明 片倉正博 横山達也 佐久間顕治* 渡瀬美江子* 榎原達也 下田世津子* 前嶋恒夫*	針間一成 江口和敬* 長谷川洋* 小早川千佳子 木村直樹* 小林美貴* 有村昌大
【電気電子担当弁理士】	本合孝治 加藤和詳（副所長） 山口真紀*	大古奈奈* 小林和幸 並川啓志* 西山 崇* 近藤知美 山極美穂* 宮澤優子 樋熊美智子*	渡邊裕子* 高橋史保* チャド・ヘリング	中川彰子	原 圭乃	村尾招子
【化学材料担当弁理士】	設楽修一 上原和貴 山中裕子* 桐内 優 関島昌子*	董 昭 金 峻河 中野浩和				
【バイオ医薬担当弁理士】	山田裕子*					
【商標意匠担当弁理士】	関島昌子*					
【米国特許弁理士】	シェルダン・モス					
【中国弁理士】	董 昭					
【韓国弁理士】	金 峻河					
【弁理士】	中野浩和					

*特定侵害訴訟代理付記

東京本部 : 東京都新宿区新宿4丁目3番17号 〒160-0022
電話 (03) 3357-5171 (代表) ファクシミリ (03) 3357-5180 (代表)
<http://www.taiyo-nk.co.jp> 相談・連絡用: info@taiyo-nk.co.jp
USオフィス : 米国バージニア州

素がいっばいの会社です。



お客様に、ご満足していただくこと。私たち春恒社の願いです。

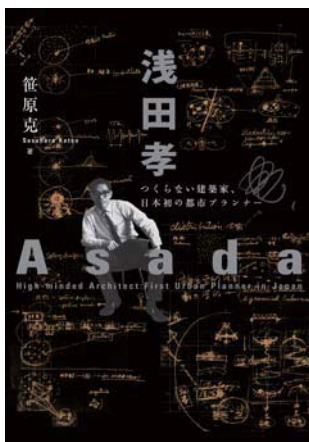


株式会社 春恒社 <http://www.shunkosha.com>

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル TEL 03-5291-6231 (代表) FAX 03-5291-2176

校友による著書紹介

伝説の建築家が蘇る
浅田 孝



笹原 克 著

(1975年大学院建築学専攻修士課程修了)

「つくらない建築家・廃墟を見た都市プランナー
行動する文明批評家」と呼ばれた天才の姿を
最後の弟子である本学卒業生が著わします

4月20日発売

定 価：本体 2,800円+税 出版社：オーム社

建築プロダクトデザイン

(暮らしを劇的に変えるモノと空間の設計思想)



鈴木敏彦 (工学院大学教授)

講談社

160ページ 3,200円+税 2013年4月10日 B5判

プロダクトと建築のあいだには暮らしを楽しむヒントがある。長い間、人々は空間を持ち運び有効に使う方法を探ってきた。歴史をひもとけば、ルイヴィトンの旅行鞆に収まる折り畳み式ベッドに始まり、フラアの移動住宅、ブルーヴェのプレファブリケーション、黒川紀章の中銀カプセルタワービルといった事例がある。鈴木が提唱するモバイルアーキテクチャーと建築家具にはフレキシブルな仕組みが満載だ。コラムではレンゾ・ピアノやアンジェロ・マンジャロティ等の取り組みを紹介し、建築家がプロダクトをデザインする方法を明かしている。



Contents

全国大会・埼玉大会案内表紙裏

挨拶

校友会 会長 挨拶 長嶋 秀世8
 学校法人 工学院大学 理事長 挨拶 高田 貢10
 工学院大学 学長 挨拶 水野 明哲11
 工学院大学 附属中学・高等学校 校長 挨拶 平方 邦行
 12

イベント報告

第1回社員総会報告・第2回社員総会案内13
 新春の集い2014 開催される14
 平成25年度全国支部長会報告16

学園 Topics17

ご寄稿

辰野金吾と工手学校 茅原 健 24

同窓生だより

スパッタリングによる反射防止膜について
 柏原 靖 26
 サービスエンジニアを目指して 奥濱 良明28
 “次世代ネットワーク技術”の裏方から

若林 伴典30
 建築設備家への道なかば 柿沼 整三 32
 チアリーダーの活動 下田 夏帆 34
 変えよう！変えよう！自分を変えよう！
 市川 享司36

校友会情報

全国の支部から38
 同窓会から40
 OB会から42

2013年各部会の活動報告

総務部・財務部・広報部・同窓会組織部・支部組織部・
 学園連携部43

校友会事務局からのお知らせ

2014年度校友会の主な行事予定 / 受章者 / 表彰者 /
 計報46
 第2回代議員選挙について / 投票用紙47
 校友会談話室のご利用について / ファカルティクラブ
 のご利用について / オープンカレッジ / アンケート48

広報部からのお知らせ

広告案内、ホームページ案内、編集後記奥付

楽しい校友会を目指す

一般社団法人 工学院大学校友会
会長 挨拶



校友会会長 長嶋 秀世
Hideyo Nagashima

校友会とはなにか、在学生やご父母に聞かれることがあります。一言でいえば、「校友会は卒業生の集まり」となるが、目的を理解しないとなかなか実感がわかない。校友のすべてが定款に書いてある目的を知っているとは断言できない。さて、定款第5条には「この法人は、学校法人工学院大学の設置する諸学校の教育事業を援助し、あわせて学園出身者相互の親睦提携を図り、学園及び地域社会の発展に貢献することを目的とする」と書かれている。

目的の第一は、学園支援である。これについては、学生、生徒の表彰、プロジェクトの支援、新宿祭、八王子祭、英語弁論大会、中高の夢工祭、バスケットボール教室、部活動への支援、就職支援など毎年行っている。学園が発展することは卒業生にとってはこの上ない喜びである。

二つ目は周りにたくさんの仲間がいて、相互に助け合いながら、楽しく交流することである。ここでは、校友会や全国の各支部が行っている楽しそうな行事を紹介し、できれば多くの校友の皆さんに参加していただき輪を拡げていきたい。

カラオケ大会は、支部の集まりの後でも十分時間が取れるので大勢の方が参加できる。カラオケは日本の文化ともいわれているが、歌っているうちに楽しさや心地良さを感じストレスも発散する。

相模支部では毎年、4月に凧の制作を行い、5月に行われる地域の大凧祭りに参加している。凧揚げでは50人以上の校友が参加し、相模川の川岸で芝桜を眺めながら五月の風を感じつつ、家族と共に楽しいひと時を過ごしている。



カラオケじゃマイクを離さないあいつ



工学院凧は大空に上がるか



延し具合は蕎麦に聞いて

昨年12月の中旬には、新宿校舎7階のファカルティクラブで蕎麦打ち同好会が開かれた。蕎麦打ちから始まり、作る人、仲間の作った蕎麦を食べる人と、楽しい食事会となった。

湘南支部の地引網は、毎年6月の日曜日に行われる。地元の神奈川県や東京、埼玉からも参加者があり、湘南の砂浜で地引網を引くのも楽しい。採った魚はみんなの夕食のおかずとなる。砂浜に張ったテントの中で潮の匂いを嗅ぎながら、缶ビールと美味しい肴^{さかな}で一杯やるのもいい。

昨年初めて計画された千葉支部の芋ほり&バーベキュー大会は10月に行われ、写真のように多くの校友とその家族が参加した。坊やが大きな芋を持って嬉しそうだ。この芋はとても美味しく、ご近所にもお裾分けしたらどこで採れたのか聞かれるほどだった。

支部で手軽にできるスポーツといえば、ボウリングとゴルフだ。ボウリングは年齢を問わず誰にでもできるやさしいスポーツだから支部の親睦には好都合である。ボウリング大会は東京、相模、沖縄の3支部で行われている。東京支部では隔月の第3金曜日にボウリング同好会が開催され、そのあと食事会をしている。ゴルフは、自然の美しい景色の中で澄みきった空気を味わいながら白球を追い、歩き回り、汗をかく、健康にはよいスポーツである。また、日々の仕事や雑務から離れストレスの解消にもなる。ゴルフコンペは10支部以上が開催し、参加者は多い支部で6組もあり、年に3回開催している支部もある。これらは親睦のほかにコンペという脳への刺激にもなる。そのほかスポーツでは卓球教室もあるが、残念ながらハイキングやテニスはない。

学術的なところでは、講演会が5支部、囲碁将棋、写真、詩吟、社会見学などもある。

このような支部の行事に参加することで、交流の輪も広がり、楽しい仲間も増え、仕事上のチャンスも増えるなど、良いことがたくさんあります。今年は、参加するぞ!!

末筆となりましたが、皆様のご健勝とますますのご活躍をお祈りします。



大漁だ?



ほくの芋だよー



今度こそストライクだ



ボールは林の中へ

学校経営新時代に向けて

学校法人 工学院大学 理事長 高田 貢

Mitsugu Takada



新年度を迎え、附属中学・高等学校 428 人、大学・大学院 1743 人の入学生が加わり、総勢 7830 人の学生・生徒が学ぶ学園として新学期がはじまりました。また、学校法人工学院大学におきましても役員の任期が満了となり、新理事会と新評議員会が発足し、その新理事会の互選により、引き続き私が理事長の大任を仰せつかることになりました。微力ながら粉骨砕身務めてまいり所存でございますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

近年、学校経営におけるガバナンスの問題がよくマスコミで取り上げられるようになっております。本学園におきましても現在、私立学校法に基づく学校法人工学院大学寄附行為（会社法では定款に相当）に基づき運営されています。その寄附行為の定めにより評議員を 53 人（教職員から 20 人、校友会から 20 人、学識経験者から 10 人、後援会 1 人、PTA 1 人、保護者の会 1 人）を選出し新評議員会を設置します。そして各出身の評議員から理事 7 人を選出（学長・校長の職務上理事各 1 人、教職員評議員の互選で 2 人、校友会評議員の互選で 2 人、学識経験者評議員の互選で 1 人）し、その 7 人の理事により学内外の学識経験者から 4 人以上～6 人以内で理事を選出し、総勢 11 人以上～13 人以内で新理事会を 3 年の任期で設置します。また、監事につきましては 3 名選出（慣例により校友会から 2 名、学識経験者から 1 名）し、その任期は 2 年となっております。以上からも明らかなように本学園のガバナンス上からも校友会の位置づけは重要であり「校友会と学園は車の両輪である」と言われるゆえんでもあります。

我が国の学校経営は今、急激な少子化の進行、教育制度改革や規制緩和などによる教育環境の大きな変化により、大学間の自由競争が激化、定員を満たせない私立大学が続出しはじめております。また、中学・高等学校の中等教育環境につきましても同様であり、高等教育環境より数年先行して、既に受験生確保の大競争時代に突入しております。

このように私学経営は難しい状況ではありますが心機一転、難題を克服し継続的發展を続けなければなりません。新学期を迎え、新役員および教職員が一丸となって新時代に向けた学園改革に取り組んでまいりますので、引き続き校友各位のご支援ご鞭撻のほどよろしくようお願い申し上げます。

八王子キャンパスの今後

工学院大学 学長 水野 明哲

Akisato Mizuno



1928（昭和3）年に新宿に校舎を建設した工学院は、1963（昭和38）年から、八王子にも校舎を設置し、2拠点での教育を開始しました。八王子キャンパスがオープンしてちょうど50年にあたる2013年の11月3日に、初の八王子キャンパスでのホームカミングが開催されました。新しい総合教育棟やステューデントセンターを中心に、懐かしいキャンパスには450名の校友のみなさまが集まり、楽しいひとときを過ごしていただきました。

八王子で最初に建った1号館は、50年を経て老朽化が進み、建て替えることになりました。地下部分に、「ものづくり支援センター（仮称）」を作り、地上部分はプロムナードになります。そのための工事がすでに始まっています。これにより、スレート屋根の機械実習工場が新しい建物に移転する運びとなり、ようやくその使命に相応しい施設に生まれ変わることとなりました。

これに続いて、老朽化や耐震基準の観点から、2号館、図書館、4号館の建て替えの検討が進んでいます。これらを2棟で吸収しようとしていますが、2棟の合計が延床面積10,000㎡をはるかに超える工事となりそうで、総合教育棟と同規模の大事業です。これによって、現在設置を予定している理工学部が必要面積を補い、また新宿の狭さの緩和を図り、さらに情報学部の1、2年次を八王子に移すための受け皿も用意します。また、事務機能のかなりの部分を八王子に移すこととし、そのための面積も考えています。耐震対応は文科省の方針にも沿ったものです。

これら2棟の建設については、現在検討をまとめつつあり、2年半ないし3年後には竣工するというスケジュールで進む見込みです。これらの建設により、八王子キャンパスはさらに近代的なキャンパスとなり、目を張るような教育・研究環境の充実を見ることとなります。次の八王子でのホームカミングを楽しみにしていただきたいと思います。

21世紀の社会で活躍するための教育をめざす

工学院大学附属 中学・高等学校 校長 平方 邦行

Kuniyuki Hirakata



急速に進むグローバル化のなかで、世界の教育は大きく変わろうとしています。わが国でも文部科学大臣・文部科学省・教育再生実行会議・教育再生実行本部が、教育制度改革に向けた提案をまとめています。しかし、教育現場は相変わらず知識の量で学力を判定する状況が続いていますし、通常行われている教職員研修なども、ほとんどの場合は20世紀型教育のバージョン・アップに過ぎず、時代の要請に応える内容にはなっていません。20世紀は過去の経験や知識を活かせば、ほとんどの問題は解決できました。しかし、「解なき社会」あるいは「答えが複数存在する社会」で活躍できる若者を育てるには中高での授業方法の改善が必要であると考えます。そのためには、高等教育への入り口である大学入学試験(問題)の抜本的改革に期待するところがあります。しかし、他力本願では先行の不透明感は拭えませんので、附属中高が自ら21世紀型教育を実践する決断をいたしました。

21世紀は情報知識基盤社会といわれ、世界経済が大きく動き出し、人と社会のつながりにも変化が生じています。そして、さまざまな産業がイノベーションを起こすことで活路を見出しています。それに呼応するかのように世界中のインターナショナル・スクールや米国のプレパラトリー・スクールはイノベーションによって新たな教育を展開し、特にICTの環境整備を充実させ、その活用力のバージョン・アップを日常的に行っています。そして、OECDのPISAの学力試験は2000年より3年に1度、実施されてきましたが、2015年から「読解力」「数学的リテラシー」「科学的リテラシー」に加えて21世紀型スキルである「協調型問題解決能力」を測定対象として考えているようです。また、デジタル化も検討されていると聞いています。

このような世界の状況に鑑みて工学院大学附属中学、高等学校は、2015年から先ず中学校の教育課程をコース別に特色を明確にした「学校づくり」を推進していきます。

第1回社員総会（第58回総会）報告

工学院大学校友会は長らく社団法人でしたが、法改正によって特例民法法人となり、2013年4月に無事一般社団法人になりました。そして法人移行後、初めての総会が2013年5月26日（日）に、新宿校舎3階アーバンテックホールで開かれました。新しいルールによる総会であり、総会に付随する会合が、一部、例年とは異なる手順と内容で行われました。新役員が紹介され、24年度事業報告がなされ、決算報告が承認され、25年度の事業計画と予算案などが報告されました。6同窓会の総会は「報告会兼意見交換会」と改められ、総会后、昼食を取りながら、同窓会毎に別れて開催されました。

その後、再度アーバンテックホールに集まり、高田理事長、水野学長、平方附属中学・高等学校新校長から、学園、大学、中学・高等学校の近況が説明され、続いて、優秀学生・生徒の表彰が行われました。多数の学園関係者のご臨席を賜り、例年通り、7階の学生食堂で懇親会が和気あいあいと盛大に開催されました。



集合写真



会長の司会



学生の表彰



学長による近況報告



理事長挨拶

第2回社員総会（第59回総会）案内

前回の第1回社員総会は、平成25年5月26日（日）10：30から第1回社員総会 / 12：15から各同窓会報告会 / 13：45から学生生徒表彰 / 15：10から懇親会という段取りで行われました。

第2回社員総会は、平成26年5月25日（日）

- 13：00～ 第2回社員総会（3階アーバンテックホール）
- 15：40～ 各同窓会報告会（同窓会別各会場）
- 16：40～ 学生生徒表彰（3階アーバンテックホール）
- 18：00～ 懇親会（7階生協食堂）

と、時間配分が一部変更されますのでご注意ください。また今回は、全国支部長会が翌日の26日（月）に予定されており、懇親会は支部長会の懇親会も兼ねていますので、いつもより多くの地方の校友会役員に会えることが期待できます。

総会の議題案は以下の通りです。

- (1) 平成25年度事業報告と決算案の承認
- (2) 定款の一部訂正案の承認
- (3) 平成26年度事業計画と予算の報告
- (4) 理事1名交代の報告

祝 工学院大学校友会 新春の集い 2014



【新春の集い 2014】 開催される

恒例の「新春の集い 2014」が1月12日（日）12時から新宿校舎の1階アトリウムで開催されました。昨年を100名も上回る497名の参加者をお招きできたことは、各同窓会の皆様の呼びかけのお陰だと思えます。心より感謝申し上げます。

新春の宴は、同窓会組織部部員で専門学校同窓会の平山徹夫さんと附属高等学校同窓会 OG の深瀬友里加さんの軽妙な司会進行で始まりま

まず、同窓会組織部小沢部長の「楽しい仲間・元気をもらえる仲間・気のおけない仲間にお会いしよう！」という「開会の辞」でスタートし、グリー

クラブOBによる「校歌」斉唱、参加者全員による「学園歌」、長嶋秀世校友会会長のご挨拶、学校法人工学院大学理事長の高田貢様からご祝辞を頂戴しました。その後、新春恒例の鏡開きを学園関係者、大学後援会会長の波多野剛様や御来賓の皆様が「よいしょ！」と決め、水野明哲工学院大学学長の乾杯のご発声により歓談がスタートしました。

本学吹奏学部が「Hey Jude」「ひこうき雲」などの名曲を演奏したあと、ソーラーカーの世界大会の報告が会場を盛り上げました。特に主将の齊藤翔君の自信に満ちたスピーチは、われら校友にとって頼もしい限りでした。その後、相

模の大風の紹介、化学科卒業後に落語家としてご活躍の三遊亭美るくさんからのビデオレターと続きました。そして工学院大学のマスコットであるコーガくとクイーンちゃんが登場すると、我先にとゆるキャラ撮影会が始まりました。

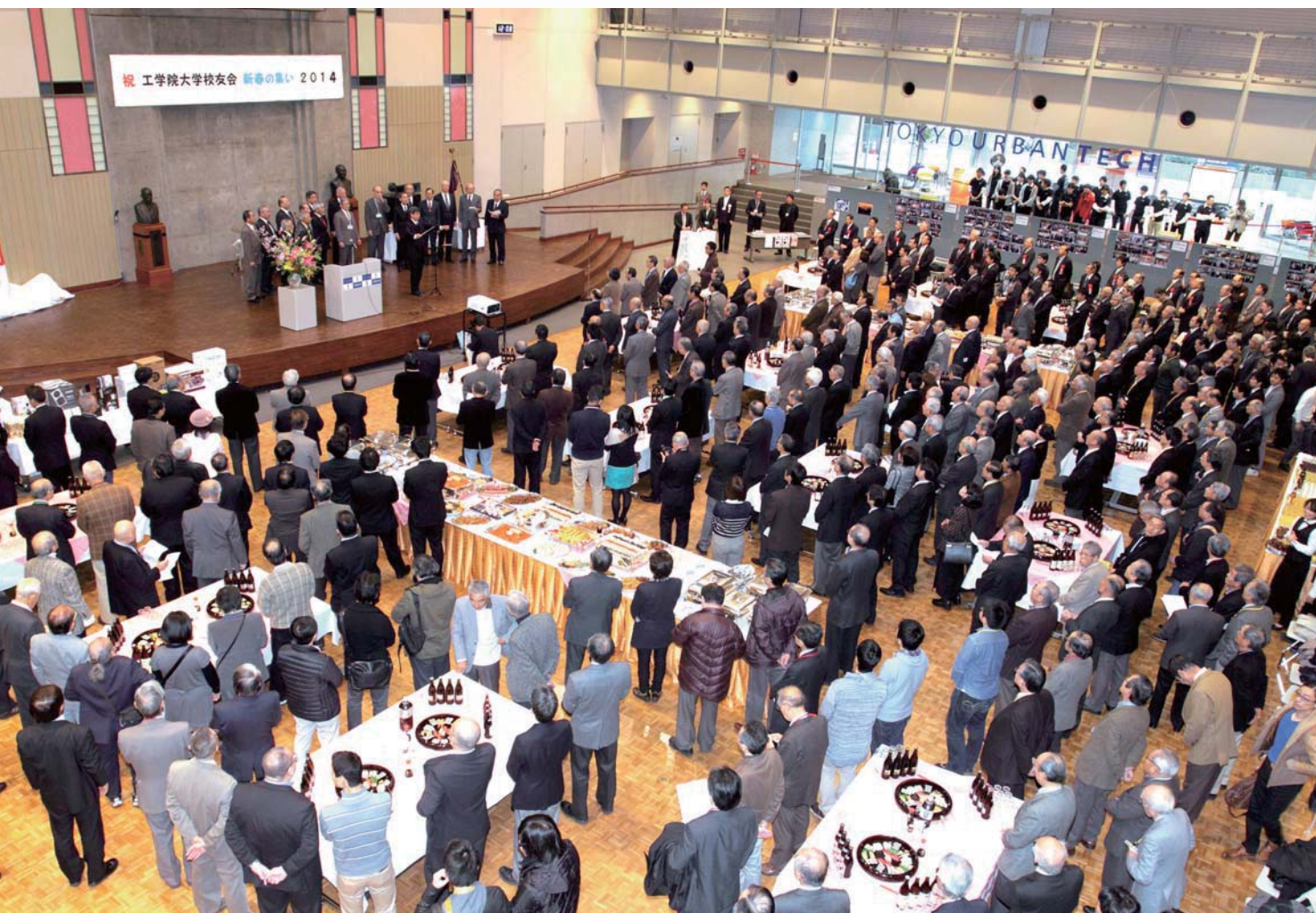
埼玉大会の黒澤兵夫実行委員長からは、今年10月18、19日に開催される校友会第17回全国大会・埼玉大会について楽しい予告がありました。

景品抽選会では、ニンテンドー3DSやAppleのiPodをはじめ、校友企業や各同窓会から提供された数多くの品物がスクリーンに映し出されました。抽選にはトランプを使いました。該当者が壇上に上がり、風船を割って中の数字を確認するはずがハプニングが続出し、良くも悪く

も盛り上がりました。最後に同窓会組織部の太田正利副部長の中締めで解散しました。

我々同窓会組織部の担当は今回初めてでした。オーストラリアで3021kmを走破したソーラーカーや、昨年発掘したタイムカプセルから25品目の貴重な埋蔵品を展示したり、同窓会別に色分けした名札を今年も引き継いだりと工夫をこらしました。なお、当日のスナップ写真を校友会事務局ではアルバムに整理しました。校友会ホームページからも閲覧できますので、是非ご利用ください。なお、次回（2015年1月11日）も多くの皆様のご参加をお待ちしております。

同窓会組織部 鈴木敏彦



八王子キャンパスにおいて 平成25年度全国支部長会が 開催されました。

1. 開催日時：11月2日（土）13時～19時
2. 場 所：八王子校舎総合教育棟4階
第5会議室
3. 参加者数：58名（本部役員含む）
4. 議 長：谷政美氏（支部組織部部长）
副 議 長：渡辺征三氏（支部組織部副部长）
書 記：小口俊明氏（支部組織部部員）
5. テ ー マ：「支部活動指数導入（案）について」

今回の全国支部長会は3部構成で行われました。第1部は、八王子キャンパスの見学会。第2部でテーマに基づく議論。第3部は懇親会という順序でした。

キャンパスの見学にはほぼ全員が参加し、在学中と比べて隔世の感があると一様に感動を受けていました。

第2部は、長嶋会長の挨拶から始まり、議長団が選出され、一般社団法人移行の現状について 谷議長からの報告の後、14名の新支部長の自己紹介がありました。引き続き、今回のテーマである「支部活動指数導入（案）について」の議論に入りました。冒頭、谷議長から「現在は会員からの維持協年会費の30%を交付金として各支部に配分している。これを、支部活性化のために、増額したい。公平性を保つために、活動指数を導入したい。支部長の皆さまのご意見を賜りたい」と趣旨が述べられ、各支部長からの質疑やご意見に対し、菊地総務部長、阿部財務部長、福田学園連携部長及び谷支部組織部長が返答しました。その後、谷議長から、「本日のご意見を踏まえ、理事会に提案したい。支部の活性化に一層のご協力をお願いしたい」との発言があり、全員一致で了承されました。

第2部後半では、報告事項として、「第17回全国大会埼玉大会」について黒澤実行委員長から、「新春の集い2014」開催について小沢同窓会組織部長から、「学園の近況報告・大学の評価」や「学園連携部紹介」などについて福田学園連携部長から、「次期代議員選挙について」菊地総務部長から、「広報部業務報告及び広報部からのお知らせ」を田中広報部長から、「交付金領収書について」を阿部財務部長から、「電磁式伝達方法の可否」を支部組織部白井氏から、それぞれ報告されました。

終了後会場を隣接の食堂に移し懇親会を行いました。皆さんそれぞれ、日常の支部活動の情報交換などで対話の輪が広がり、和気あいあいの語らいの場となりました。

記) 支部組織部 小口 俊明



学園創立 125 周年記念事業

新弓道場・新ボクシング場が竣工

設計者 富永 祥子
(建築学部建築デザイン学科)

「国産無垢材を使った木造無柱空間（7.2m × 10.8m）をローコストでつくる」という条件に対し、弓道場には細い束・貫による格子フレーム、ボクシング場には大仏様の三手先を内部空間に反転した天秤フレームを提案しました。共に斜材を使わない水平垂直の構成と、その膨大な接合部の集積により外力を吸収する柔軟な構造で、「日本の伝統的木造建築の美しさや構造特性を現代の技術で再構成したい」という考えがベースになっています。



特徴的だったのは木材に関わるチーム体制です。国産材利用の企画提案者である後藤治常務理事（建築デザイン学科教授）から紹介いただいた木材業者と、設計の早い段階から密な情報交換ができたことで、コスト・性能を満たす最適な材料の選択が実現しました。また大規模木造に欠かせない構造実験は、木質構造系研究室の河合直人教授（建築学科）の協力を仰ぎ、貴重な裏付けデータを得ることができました。



前例のない設計に対し真摯に取り組んでくれた施工業者の方々も含め、この恵まれた体制があったからこそ、新しい木造の可能性に挑戦できたと感じています。両建物は、生きた建築教材としての側面も持っており、弓道場の一部には、建築学部1年生が実習制作したコンクリート平板も組み込まれています。今後もこの建物が建築教育の生きた教材として活用されるよう、尽力していきます。

学生プロジェクト 工学院大学 ソーラーカープロジェクト



新型マシンで オーストラリア 縦断へ!

「Bridgestone World Solar Challenge 2013」に初出場!

工学院大学ソーラーカープロジェクトは、10月6日～13日にかけて行われた「Bridgestone World Solar Challenge 2013」に出場するため、オーストラリアに向けて出発しました。それに先立ち、キャンパス内で記者会見を行い、新型モデル「Practice」を初公開しました。

世界大会へ向けて記者発表会を実施!

7月23日、新宿キャンパスでソーラーカープロジェクトの記者会見を開催し、「Bridgestone World Solar Challenge 2013 (WSC)」への出場表明と、1号機を大幅に改良した新型2号機「Practice」のお披露目を行いました。WSCはオーストラリア北部のダーウィンから南部のアデレードまでの3,021kmを走行し、順位を競う国際的なソーラーカーレースです。会場には多くの報道関係者のほか、サポート企業・団体の方々も集まり、プロジェクトメンバーは世界大会出場に向けて決意を新たにしました。



多くの報道関係者が駆けつけた記者発表

2号機「Practice」SPEC

「Practice」
全長:4.5m
全幅:1.8m
全高:1.1m
重量:151kg 最高速度:約155km
太陽エネルギー変換効率:22.6%以上

サンパワージャパンのソーラーパネル。搭載面積は6㎡。

NTNの特別仕様の軸受け。50%以上の低トルク化を実現。

1号機から継承した基本機軸・4輪。低重心。運転が楽。小型。左ハンドル(すべて世界初仕様)

華人グループの超軽量炭素繊維「チタックス」。厚さ0.06mm。重量1/3に。

プリチソンがソーラーカーレース用にチューンアップしたタイヤ「ECOPIA(エコピア)」。低転がり抵抗。空気抵抗低減を実現。



COOBERPEDY

10/9 大会4日目、スタート地点からおよそ半分を通過した約1,700km付近から走行開始し、この日は約2,200km地点で終了。コントロールポイントの通過制限時間の関係で、トランスポーターによる搬送も行った。



10/10 大会5日目、ゴールまで残り約750kmから走行開始。最終コントロールポイントであるポートオーガスタを目指す。レース開始後初の悪天候となり、バッテリー充電状況を考慮し、スピードを気にしながらの走行となった。



PORT AUGUSTA



10/11 大会6日目、昨日の悪天候でポートオーガスタへの到着が17時すぎとなり、大会規定による時間調整のため通常のスタートから1時間遅れで走行開始。ただ、早朝からの蓄電状況もよく、その遅れをカバーするほどになり、いよいよゴールを目指す。

次代へ つなぐ 熱走!

豪大陸 3,021km
砂漠地帯を走破!

工学院大学ソーラーカープロジェクトは、10月6日～13日までオーストラリアで開催された国際的なソーラーカーレース「Bridgestone World Solar Challenge 2013 (WSC2013)」に初出場しました。国内6チームの他、スタンフォード大学やトロント大学など、有名校を含む23カ国40チームが参加。設立5年目で世界大会出場を果たしたプロジェクトチームは果敢に挑戦し、レースを無事ゴールで終えました。今回の世界大会での経験は、本学の実践教育の貴重な資産となり、それは後輩たちへ伝統として受け継がれていきます。

DARWIN



9/27、先発隊と後発隊が合流。先発隊は3日前にレースゴール地点の南部アデレードを出発し、レーススタート地点となるダーウィンまでのコース下見を終え、全メンバーで現地レースでの準備を本格的に開始。



10/6大会初日、いよいよ「Bridgestone World Solar Challenge 2013」の本戦が開幕。チームは前日の予選結果から2番手という好ポジションでのスタート。最初のコントロールポイント(規定通過点)であるキャサリンへ向けスタートした。

Course

WSCは、オーストラリア大陸を北から南へと、最大6日間にわたって縦断する耐久レース。日本列島がすっぽりおさまる距離を、太陽光を動力に変えて進む。8時～17時までと限られた走行時間で発電・蓄電を行う、技術の勝負でもある。全コースには9カ所のコントロールポイントが設けられ、決められた日時までに通過しなくてはならない。厳しいチェックをクリアしていく戦いだ。

レース期間中のオーストラリアは、日本の初夏にあたる。ほとんどが砂漠エリアを走るコースは、昼間の気温40度を超えることもある乾いた灼熱地帯だ。行けども景色差のない道路脇には、野生動物が倒れていることも。夜間、唯一の休息は、主に野営。体調の崩れさえも敵に変わる厳しい環境が続く。まさに過酷な自然との闘いでもあるWSCで、彼らは走り抜いた。

START DARWIN ダーウィン



DUNMARRA



チームは2つめのコントロールポイントとなるダンマラの手前まで進み、走行距離約600kmで1日目の進行を終えた。

KATHERINE
キャサリン



DUNMARRA
ダンマラ

TENNANT CREEK
テナント・クリーク

TITREE
ティーツリー

ALICE SPRINGS
アリス・スプリングス

KUL GERA
カルゲラ

COOBER PEDY
クーバー・ペディ

GLENDAMBO
グレンタンボ

PORT AUGUSTA
ポート・オーガスタ

GOAL
ADELAIDE
アデレード



ADELAIDE



10/11日午後、念願のゴール地点・アデレードへ到着。その後、セレモニーゴールのあるアデレード市内のヒンドマーシュスクエアに進み、6日間での豪大陸縦断を終えた。チームメンバーにも笑顔があふれた。

アメリカの 3 大学と 学術協定締結

本学は5月15～16日にアメリカ・ワシントン州の3大学(Lake Washington Institute of Technology、Green River Community College、South Seattle Community College)と正式に学術協定を締結しました。

SSCCは春の語学研修、GRCCは八王子キャンパスへのGRCC学生受け入れプログラムを協働で実施する大学です。各校を訪れた水野学長は、調印後の会合で各大学学長と大学教育・研究の現状や展望、今後の新規プログラムの展開について話し合い、積極的に協力していく意向を確認しました。

■レイクワシントン工科大学

Lake Washington Institute of Technology (略称：LWIT)

- キャンパス：ワシントン州カークランド市
- 設立：1949年
- 学生数：約5,000名

ワシントン州シアトルから約16キロ東のKirkland市にある公立の4年制・2年制併設大学。Kirkland市はマイクロソフト、ボーイング、米国任天堂、スターバックスなどの大手最先端企業が本拠地とする、ワシントン州「Technology Corridor (テクノロジー回廊)」の中心地です。



■サウスシアトルコミュニティカレッジ

South Seattle Community College (略称：SSCC)

- キャンパス：ワシントン州シアトル市
- 設立：1969年
- 学生数：約7,000名

ノースウエスト教育協会から認可され、1969年に2年制公立大学として創立。キャンパスはウェストシアトル(ダウンタウンの西側)の丘の上にあり、シアトルの中心地からバスで約10分のとても便利な所にあります。他の2大学(NorthSeattleおよびCentral Seattle)と共にSeattleCommunity Collegesを形成しています。



■グリーンリバー・コミュニティカレッジ

Green River Community College (略称：GRCC)

- キャンパス：ワシントン州オーバーン市
- 設立：1965年
- 学生数：約8,000名

ワシントン州シアトルより車で40分の街(Auburn市)に位置する州立の2年制大学。現在約8,000名の学生が在籍しており、うち約600名は留学生。GRCCは航空操縦学が有名で、米国内はもとより、世界中から留学生が集まっています。現在キャンパスはAuburnの他にKent市、Enumclaw市の3ヶ所に展開しています。



本学アメリカ協定校から 19名の留学生が 八王子キャンパスに来日！ ～ GRCC の留学プログラム～

留学生のアテンド役として、様々な活動と一緒に行いました。学内でのランチやクラブ活動に始まり、八王子祭や体育祭にも参加。週末のショッピングに出かけたり、秩父・長瀨溪谷への親睦旅行で日本の紅葉を堪能するなど、親睦を深めました。

11月29日の「Sayonara Party」では、留学生とキャンパスメイトが協力して、キャロットケーキやマッシュポテトなどの“アメリカン・フード”作りに挑戦。楽しくにぎやかなパーティーに手作り料理の数々が華を添えました。



日本初！ 『ハイブリッド留学プログラム』 1期生が帰国

建築学部3年生の希望者が参加した日本初となる「ハイブリッド留学プログラム」。

2013年8月31日から始まった本学オリジナルのこのプログラムは、3年次後期の4.5ヶ月間（2013年度）をイギリス カンタベリー市に留学し、現地提携校施設を利用し、専門科目は日本

から担当教員が渡英し日本語で実施、滞在中の生活は現地の家庭にホームステイし英語で過ごすという”ハイブリッド環境”での留学が最大の特徴です。

留学生生活をとおして、日々の生活で語学力を鍛え確かな国際感覚を身に付けることができた21名。全員がひとまわり大きくなって1月7日に元気に帰国しました。



附属高校チアリーダー 今年はさらにパワーアップ！

昨年、20名の有志でスタートしたチアリーダーが、今年は28名に増え再スタートしました。

生徒たちは、他校のチアリーディングやインターネット上の動画などを見て研究しながら、自主的に振り付けや曲目をすべて生徒たちが決めて練習に励んでいます。

昨年のチームでは、夏の高校野球の応援を行

いました。最初は照れもあり、踊りの細かなところに気を取られていた様子でしたが、試合が進むにつれて応援にも力が入り、自然と大きな声も出て、表情もイキイキと懸命に応援する生徒達の姿はとても感動的でした。今年はさらにパワーアップした応援を期待しています。



八王子で初！ ホームカミングデー開催！

卒業生の皆さんが過ごしたキャンパスで、懐かしい恩師や学友といった、「会いたい人」に再会していただけるホームカミングデー。開催は、11月3日。八王子キャンパスを会場としたのは初めての試みでした。それぞれの参加者にとって、在学時につながりのあった会いたい人に会えるよう、所属されていた研究室や部活動など

のグループを中心にご案内。その結果、約300名の方々にご参加をいただき、ソーラーカープロジェクトによる世界大会の出場報告や、野球・サッカー・弓道・ボクシングなど部活動の紹介、協定校である北京航空航天大学の学生による歓迎パフォーマンスなど、趣向を凝らした催しで大盛況となりました。最後は在学時代の懐か



しいスライドショーを上映。「母校工学院大学」
を感じていただくことができました。なお、来

年度は11月1日に開催予定です。

八王子キャンパスで クリスマスパーティー！

12月20日、八王子キャンパスでは、近隣地域
住民の方々を招待しクリスマスパーティーを開
催しました。「学生の活気溢れるキャンパス、地
域社会に開かれた大学」をめざしている本学が、
日頃の感謝の気持ちを込めて行っているもので、
2年連続の開催となりました。

クリスマス景品が当たるビンゴ大会やクイズ

大会などの催し物は、I部学生自治会、八王子
祭実行委員会が企画から運営までを行い、必要
な音響・PA関係は全て電子技術研究部がサポ
ート。楽しむ子供たちの笑顔が、学生たちの喜び
や自信へとつながったクリスマスパーティーと
なりました。





茅原 健

Ken Kayahara

■ 略歴

1934年、東京に生まれる。中央大学法学部卒。工学院大学に勤務。同評議員、同学園開発本部部長。エステック（株）専務取締役、工学院大学参与（学園125年史担当）などを歴任。また、（財）日本私学教育研究所専任研究員、事務局長、理事などを務める。

主書：「民本主義の論客 茅原華山伝」（不二出版）、「新宿・大久保文士村界限」（日本古書通信社）、「工手学校」（中公新書ラクレ）など。

男の顔は履歴書

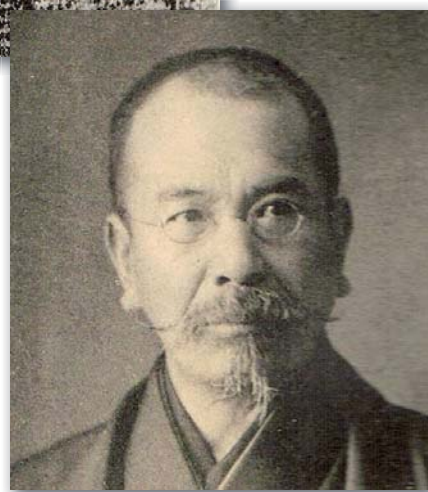
二枚の顔写真をご覧いただきたい。明治期日本の建築界の大御所、辰野金吾の肖像写真である。若い方の顔は、才気煥発、進取果敢の気を孕む容貌をしている。この頃、辰野は渡邊洪基から、技師を補助するための工手を養成する学校を創ろうと相談を受けている。もう一つは、頭髮は薄くなったが、鼻下の鬚に顎鬚をたくわえた、眼鏡の奥の眼光鋭く他を威圧するような風貌をしている。一家を成した明治人の顔だ。

「40過ぎた男の顔は履歴書だ」、と言ったのはアメリカの大統領リーンカーンだったか。この二つの肖像を眺めていると、安政元年（1854）年に、肥前（佐賀県）唐津の下級武士に生まれた辰野が、工部大学校（現・東京大学工学部）で建築を勉強し、イギリスに留学。やがて官を辞して野に下り、一介の建築家として奮闘していく遍歴が思い出される。

二つの伝記

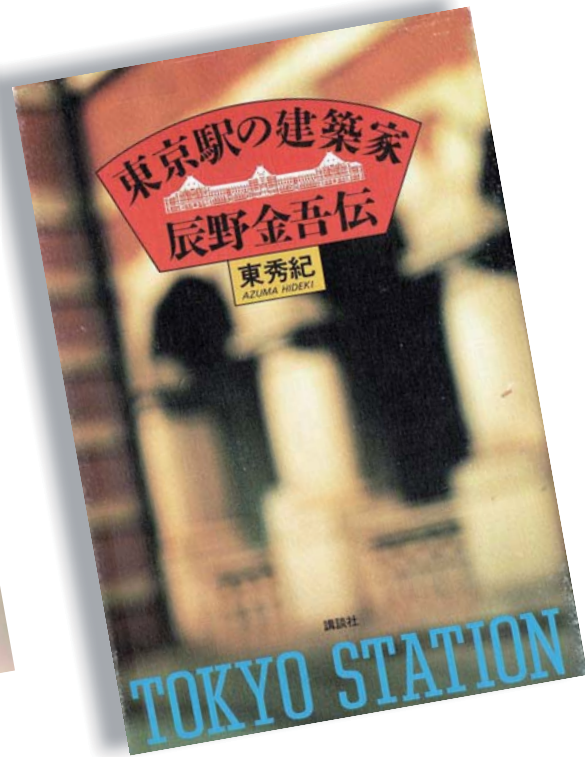
辰野金吾の主要な伝記は二つある。ひとつは、『工学博士 辰野金吾傳』（白鳥省吾・辰野葛西事務所・大正15）だ。そこにある「建築教育界に

辰野金吾 と 工手学校



對する功績」では、辰野が創設の時から関与した「工手学校」（現・工学院大学）が特記されている。

辰野は工手学校創設委員の一人。建築学科教務主理、会計主任などを歴任。三好晋六郎校長不在のときには、校長代理を務めた。さらに監事、管理員として経営面にも携わる。このように、大正8（1919）年に逝った辰野金吾の工手学校におけ



る学内履歴を掲げ、「本校には如何に関係の深かりしかを推知することが出来る」とその功績を讃えた。「辰野金吾伝」の書名は古市公威の揮毫である。

もう一つは、『東京駅の建築家 辰野金吾伝』（東秀紀・講談社・2002）。物語風に書かれたこの伝記には、工手学校建築学科卒業生で、辰野に弟子入りし、第一生命本館（戦後GHQが接收）を設計した松本與作が登場する。そのなかで、辰野が工手学校の設立に賛同したのは、彼が手下のいない建築現場での経験から、「エリートだけでは、建物は完成せず、具体的な詳細図を描いて現場で指示し、監理を行う者がいて」大規模な建築が出来るということを痛感したからだった、と語られている。

東京駅舎

ちょうど、学園が125周年を迎える頃、東京駅舎の復原が話題を呼んでいた。一時、東京駅丸の内側の周辺は、復原された駅舎を見る「写メる族」でごった返しの状態だった。しかし、この駅舎が辰野金吾の設計だと知る人は何人いただろうか。学園125周年記念の一環として、「東京駅丸の内駅舎 復原模型製作プロジェクト」のチームが製作した東京駅舎の模型が記念式場の一角に展示



してあった。意義ある企画だった。

かつて、TOKYO STATION GALLERYで「東京駅と辰野金吾 一駅舎の成り立ちと東京駅の出来るまで」という展示会があった。その図録は、建築家辰野金吾の文献案内として貴重なものだ。そこに収録されている「辰野金吾の生い立ち」（藤森昭信）では、辰野家のルーツが語られ、「教育者として一官学から私学へ」（初田亨）では、辰野の生真面目な性格が披露されている。辰野金吾の建築作品としては、東京駅舎の他に、日本銀行本店が知られている。

スパッタリングによる反射防止膜について



柏原 靖

Yasushi Kashiwabara

タイゴールド株式会社

大学での卒論は、現学長の水野明哲先生にお世話になりNECのTK-85というワンボードマイコンを使った、純粋な流体工学というよりも制御関係を卒論のテーマとしました。卒業後は機械だけではなく、電気、ソフトも駆使し動作するものに携わりたいという事で自動製図機のメーカーである武藤工業（株）に入社。

武藤工業（株）では、色々なことをてっとり早く知ろうとサービス部門に配属。東日本地域を工具担いで回り色々なお客様、業界と接し機械、電気、顧客への対応等を学んだ。

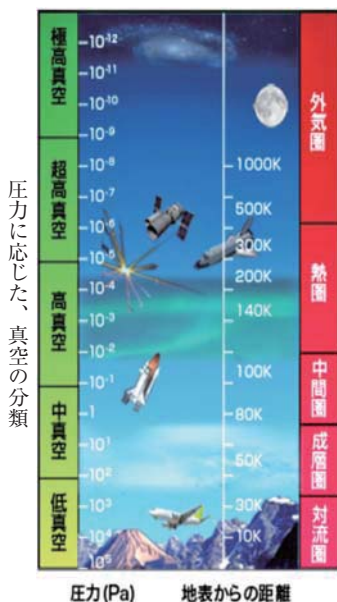
当時、電気については理論的にわかっていなかったので聴講生として電気工学2部に通い古明地教授にお世話になりました。また、この頃から、湘南支部、機械同窓会にも顔を出すようになり多くの先輩、通常では話もできない企業の上層部の方や経営者の方から大学の後輩ということで親しく接していただき多くの事を学ばせて頂いた。

1999年に外資系のOCLI-Asiaに入社。携帯電話のディスプレイの偏光板に反射防止膜を成膜する装置をアメリカから順次移設。設備、製造関係の責任者を担当。

2004年に現在勤務しているタイゴールドに譲渡され、営業に配属。現在に至る。

校友会、同窓会ともに若い人の参加が少ない。敷居が高いのかもしれませんが、先輩と触れ合うことにより、学生時代や職場でも得られない、知識、人脈ができるのでぜひ参加してほしいと思います。

縁があり執筆のご依頼をいただいたので、現業のスパッタリングによる反射防止コーティングについて書かせていただきます。



■ 略歴

1982年 工学院大学 機械工学科卒業
 1982年 武藤工業株式会社入社
 1999年 OCLI-ASIA入社
 2004年 タイゴールド株式会社入社
 2013年 取締役 営業本部長
 HP : <http://www.tigold.co.jp>

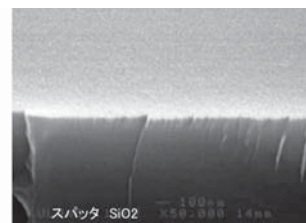
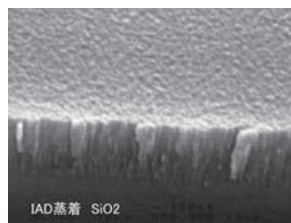
■ 真空蒸着とスパッタリングの違い

真空というと宇宙空間のように、「真に何も無い、空っぽな状態」をイメージしてしまいがちですが、実際には、全く何も無い空間を作り出すことはできません。日本工業規格JISによれば、「真空とは通常の大気圧より低い圧力の気体で満たされた空間の状態、圧力そのものをいうものではない」とあります。

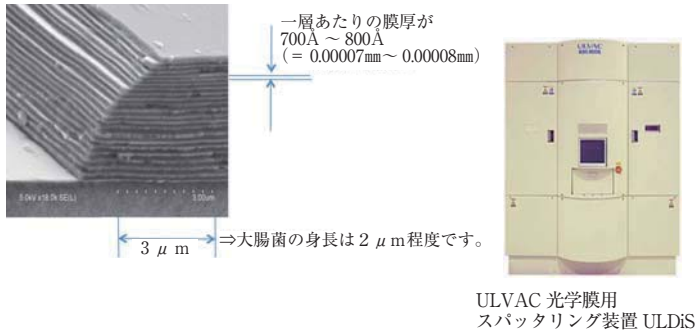
真空技術の世界では、真空ポンプを利用し、空気から気体分子を吸い出すことで、人工的に作り出した低圧状態のことを「真空」ということにしています。

真空蒸着という言葉は耳にされたことが多いかと思いますが、スパッタリングとの違いについて説明をさせていただきます。

両方とも容器（チャンバ）の中を高真空状態にすることは同じなのですが、真空蒸着は、飛ばす材料を溶融し蒸発させ基板にコーティングさせる方法ですが、スパッタリングはイオンを材料に衝突させ原子、分子を基板にコーティングする方法です。一般的には真空蒸着は基板に対し材料が小さく、分布ムラの制御が困難なので大きな基板へのコーティングには向かず、小型デバイスや半導体部品に多く利用されています。スパッタリングは基板に対して材料の大きさが比例し分布ムラの制御が可能。大型デバイスやFlat Panel Display、太陽電池に多く採用されています。また、スパッタリングの方が製法上蒸着に比較し、分子、電子のエネルギーが蒸着の100倍程度あり基材と膜との密着性の良いものが得られます。



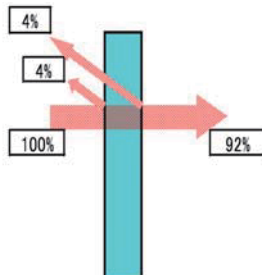
SiO₂をコーティングした蒸着とスパッタリングとのSEM写真ですが、スパッタの方が緻密なことをご理解いただけるものと思います。また、よく薄膜と言われますが、約40層程度のスパッタリングの断面写真をご覧ください。



■反射防止膜について

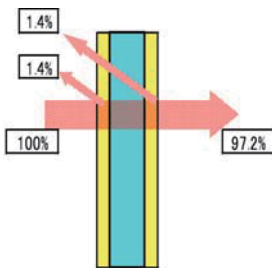
光学膜も色々な種類、用途がありますが、身近な反射防止膜について解説します。

■硝子だけの場合



屈折率 (n=1.5) の硝子板に光が入射する場合、光が界面に当たると反射をおこします。

硝子の表面と裏面でそれぞれ 4% 反射しますので、合計 8% が反射し 92% の光が透過する事になります。

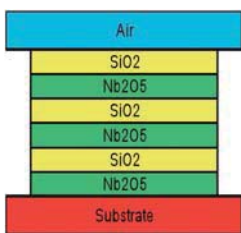


■硝子の両面に反射防止膜をコーティングした場合

硝子の両面に反射を減衰させるための材料をコーティングすると反射を抑え、透過する光を増やすことができます。

例えば、屈折率 1.38 のフッ化マグネシウムを付けると界面の反射率はそれぞれ 4% から 1.4% に低減され 97.2% の光が透過する事になります。

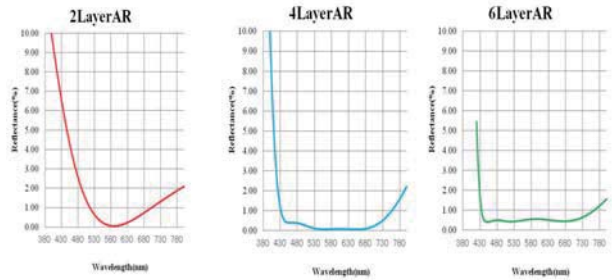
■反射防止膜 (AR = Anti Reflection) の材料と構成について



反射防止膜の構成例

スパッタリングの材料は SiO₂、MgF₂、TiO₂、Nb₂O₅、Al₂O₃ など透明な誘電性材料を選定し、層数は 2 ~ 6 層。用途、仕様により選定します。

■層数での光学特性について



グラフの見方ですが、縦軸 (Reflection) が反射率。値が低いほど反射が抑えられています。

横軸 (Wavelength) が波長。可視光線が 380nm ~ 800nm (人により差はあります) で、人間の眼の感度が良いところは 550nm 付近です。

【2Layer AR】特徴：単一波長のみ反射を抑え透過させる。仕様となる波長のみ効率化を目的とする。

用途：BluRay、DVD、CD、LD、MO などの光学エンジン等

【4Layer AR】特徴：視感度帯全体の反射と抑え透過させる。仕様波長が広い場合 4 層を選定する。

用途：ディスプレイなど デバイスの光の効率化等

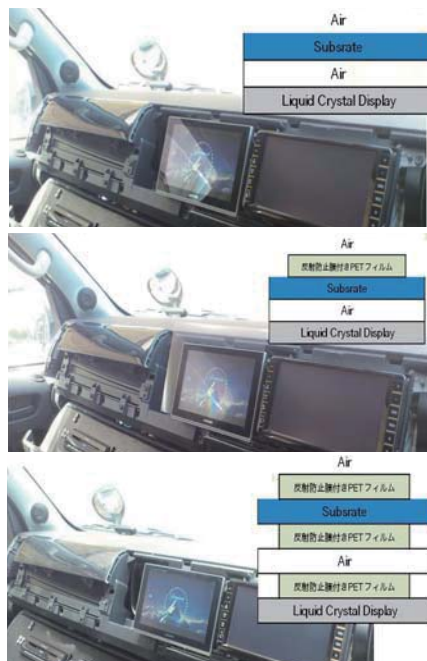
【6Layer AR】特徴：視感度帯全体の反射色彩を抑え透過させる。視感度帯の反射をフラットにする。

用途：ディスプレイなど デザイン性と見やすさ

■実際の用途

反射防止膜についての歴史は長く、航空宇宙産業で広く使われていたのですが、最近のモバイル端末の普及に伴い、屋外での視認性向上のためデジタルカメラ、スマートフォン、パソコン、カーナビ等のディスプレイに使用されるようになり、特に 4 Layer AR 以上のものへの要求が増えてきています。

実例としてカーナビへコーティングをしていないもの、片面だけコーティングしたもの、両面コーティングしたものについて写真を掲載します。



サービスエンジニアを目指して



奥濱 良明

Yoshiaki Okuhama

大和化成株式会社
株式会社大和化成研究所
代表取締役社長

校友会から校友会報に寄稿してほしいと言われ、何を書いたらよいか迷いましたが、私が工学院大学に入った経緯やその後の自分の足跡を振り返りつつ、これからの日本をしょって立つ若者への期待を述べたいと思います。

私は、今78歳で社員数約200名の会社を経営しています。10年前には社員50名ほどの無機薬品販売会社を、3年前には東北の化学品製造会社を買取り、2013年からはメッキ薬剤の製造会社の吸収合併を頼まれており、今もなお現役で走り続けています。

私は高等学校を商業科に学び、公認会計士を目指していましたが、運命の悪戯か、アルバイトをしていた化学品の販売会社が3年も赤字続きで、当時の社長から、何が原因かと問われました。よくよく調べて見たら、合成委託をしていた先から持ち込原料よりはるかに少ない製品しか帰って来ないことがわかり原因をたどると、歩留りが悪く収率が悪いとの返事、商業科出の私としては困りはて、当時工学院大学有機化学の有馬純三先生にお教え願おうと大学に行ったところ、君は将来何をやる気だね、と言われ、勿論、公認会計士ですと答えると、それなら今さら化学なんてもう遅いよと言われてしまいました。今会社が危なくなっているのでは何かしたいと言いますと、それでは工学院大学二部に入学するように言われました。このことが私の人生が180度転換するきっ掛けになったわけです。

昼間は化学品の販売会社で経理の仕事をしていましたが、その内に営業にも手をそめ、特に三井化学の製品の販売とか、協和発酵のアルコール類の販売などを手伝い、

■ 略歴

1935年 3月 大阪市に生まれる。
1952年 3月 一橋商業高等学校卒業
1956年 3月 工学院大学工業化学科第2部卒業
1963年 12月 大和化成株式会社設立、社長就任
1967年 10月 (株)大和化成研究所設立、社長就任
1973年 大和化成(株)の資本金を400万円に増資、本社新社屋竣工(神戸)、東京営業所開設
1995年 1月 阪神淡路大震災により本社ビル倒壊
2006年 11月 大和化成(株)の資本金を8,880万円に増資
2013年 創立50周年を迎える。

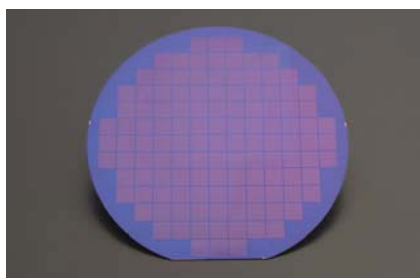
夜は工学院大学夜間部で化学を学び3年生からは当時の横山有機化学研究室に通い、合成実験を繰り返しました。昼間は化学の仕事、夜は学校で化学品の周辺を学び、正しく理想的な実の有る人生を出発する事が出来ました。

工学院大学の教育の基本方針の一つとして、社会活動において大学の卒業生は、現場ですぐに役立つ技術者の育成に有るとのことですから、正しくこれでは無いかと思いました。

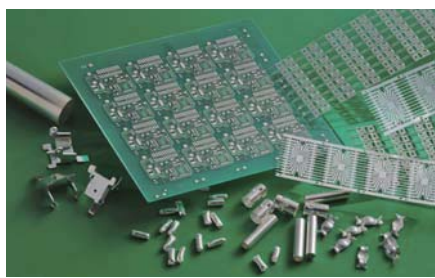
大学の卒業論文は奇しくもオーツケミカル(株)会長の合田房雄氏が校友会報 Vol. 132にご寄稿なされた、横山研究室のテーマであるホスホニトリル研究(建築資材の外壁材用コーキング剤の開発)でした。私も大学4年で同じ卒論を取りましたが、樹脂重合も色々なやり方が有ることを覚えました。

私の会社は営業を主力とし、資金も無く利益の上らない会社でしたから、即、売上げが上り、利益の取れる、溶剤の回収とか化学品の精製とか、今のリサイクル事業に力を入れました。取引先を回りながら、精製の注文を受けては外部の精製設備の有る会社に仕事を頼んで歩きました。

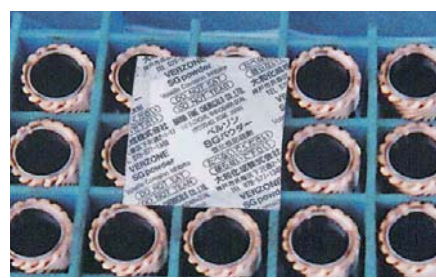
また、私は元来、ずぼらな方なるべく簡単な方法で合成を考え、炭素間の閉環反応でシクロ環を作るところを、ナフタレン化合物を原料に選び高压水添でシクロ環にしたり、当時は余り物の無かった時代ですから、中間高压反応設備が無く、松本基太郎先生の考案で海軍の潜水艦の魚雷を改造した反応釜で高压水添によるベンゼン環だけを、シクロ環にして製造した合成香料を、パインオイルとして販売をしたりしました。



Sn めっき



ノンシアン



気化性防錆剤グリーン

若い社員と会議



台湾工場



研究所

大和化成研究所社員

明石工場空撮



今になって思い返すと、我が社の社是である創造、独創、共創は、このときに発想が芽生えたのではないかと思います。

我が社は2013年で創立50年を迎えましたが、右肩上がりの高度成長時代には、学生の就職者が少なく、随分苦勞をしました。例えば、学生の内定者を海外旅行に連れて行ったり、宝物を扱うように優遇したりしましたが、その当時の社員はほとんど残っていないのが現状です。当時の学生諸君にも、また企業としても大なる損失ではなかつたと思います。

リーマンショック後4-5年経ってからの学生諸君はだいぶ様変わりしております。

就職難を身近に感じ、不安定な社会の現状に気が付き、グローバルに動く世界の経済界に直面せざるを得なくなったわけです。我が社には2年おきに10名前後の学生が入社しますが、まず眼が輝き始めたこと、話を真剣に聞くようになったこと、積極性が出て来たこと、本当の意味の金の卵として期待出来るようになってきたように思われます。

私は最近、会社が求める新入社員諸君の期待像は、学生時代の成績ではなくて、若さと、情熱ですと話しております。若さは皆さん持っていますから、今さら若さでも無いでしょう。残るは一つ、情熱です。情熱こそが今後の君たちを支配する全ての源泉になると思ってください。最近気になることの一つは今の若い人達が、内向き思考になって来たことです。それは各家庭の家族構成にも起因すると思いますが、それにしても、非情に残念なことです。今や世界の経済界は国境が無くなり猛スピー

ドでグローバルに動き出しております。若い内にこそ世界に羽ばたき、せめて技術だけは、世界の指導的立場を継続してもらいたいと思います。

もう一つの最近気になることは、今の若い人達は昔と違って非情に情報量が多いことです。目先の情報に追われ、インターネットで検索するあまり、関連の本を、読まなくなったことです。本の記載事項だけでなく、読みながらそのことの周辺事項を頭で思いうる浮べ、連鎖的にその周辺の智識を得るために、本を読むことが少なくなっている気がします。

最近のサービスエンジニアとか、営業の人達と話をしていて感じるのですが、雑学を学んでないことが気になります。本題とする事項は良く知っていますが、その周辺の智識の欠除により話しが弾まない気がします。

知識の集積により、やがてはそれが知恵となり全てに働く原動力になると思います。

近年日本においてはデフレから、インフレへと舵をきりつつありますが、世界の経済の先行きは、良く見えない不透明な現状です。世界の国々は、特に資源保有国は今までのように、ただ資源を輸出するのではなくて、より多くの付加価値を付けて、加工度を高めて、世界に輸出しようとする方針を変えて来ています。今のところ日本は先端技術の大半を握っておりますが、日本の独壇場とは行かなくなります。世界の信用と尊敬を今までのように継続し、日本経済、日本国民の為に今後の若き技術者は、今まで以上に、創造性と独創性を求められ、今まで欠けているといわれる、スピード感を求められると思います。

頑張ってもらいたいと思います。

“次世代ネットワーク技術”の裏方から



若林 伴典

Tomonori Wakabayashi

ベストシステムズ

2011年8月より独立行政法人情報通信研究機構(略称:NICT)のテストベッド研究開発推進センターで働いています。ここでは新世代通信網テストベッド「JGN-X」(JGN eXtreme)という、日本全国にわたる広域ネットワークの構築・運用を行っており、次世代ネットワーク技術の研究、実証実験を行うための環境基盤や各種サービスを提供しています。特徴的なのは、利用者としてNICT自らなる場合もありますが大学、海外の研究機関等だけでなく、民間企業や自治体もJGN-Xを利用した研究、実証実験を行っていることです。

面白い例として、毎年、北海道で開催される「さっぽろ雪まつり」と連携して、新しいネットワーク技術、映像配信技術の大規模な実証実験が行われています。

■ 学歴・職歴

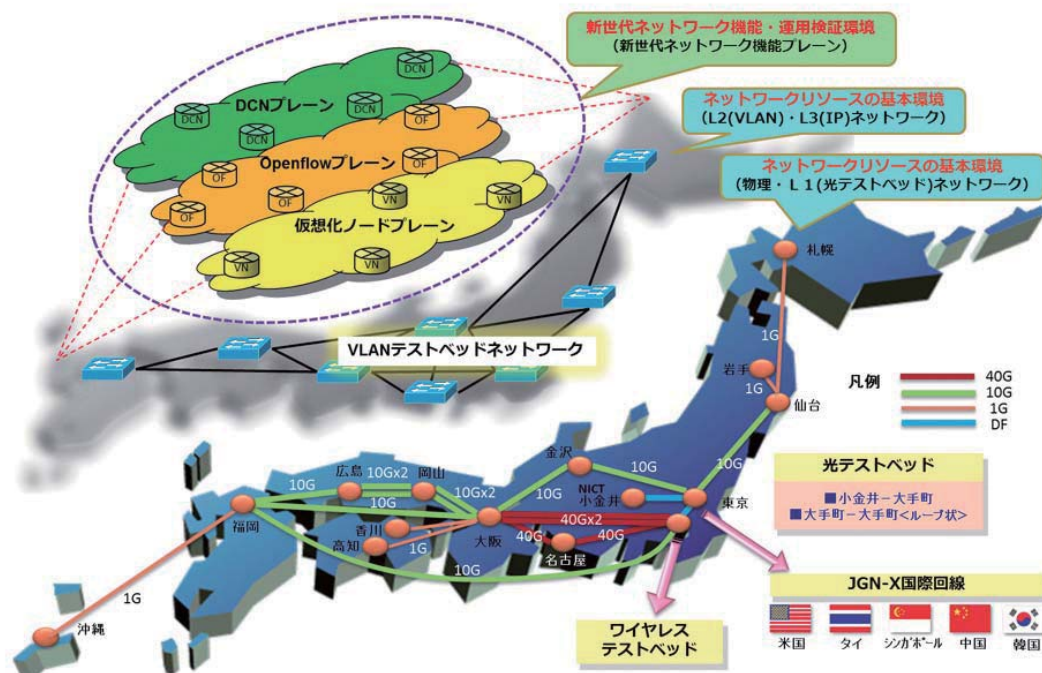
2007年3月 工学院大学 工学部第1部
電気工学科 卒業
2009年3月 工学院大学 大学院工学研究科
情報学専攻 修了
2009年4月 株式会社ベストシステムズ 入社
2011年8月より 独立行政法人情報通信研究
機構にて支援業務

■ 学会・その他活動：

2009年-2012年 情報処理学会 ハイパフォーマン
スコンピューティング研究会
運営委員
2011年 第10回 情報科学技術フォーラム
FIT2011 担当委員
2013年 Python Conference Asia-Pacific 2013
in Japan 運営チーム会場担当

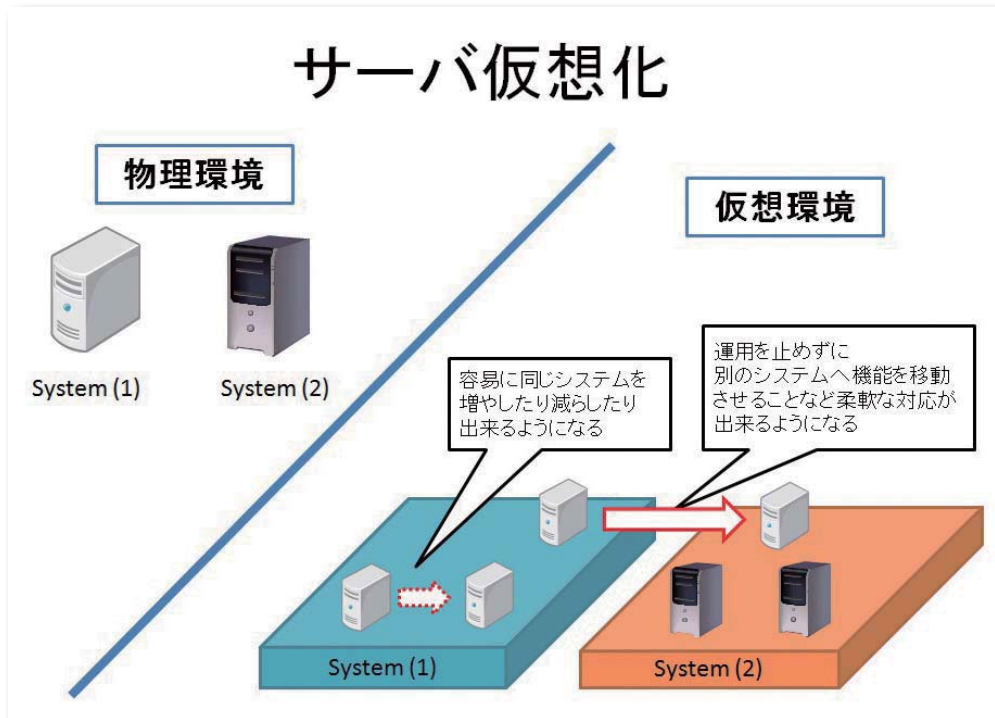
株式会社ベストシステムズでは、私は主に大学の研究者等が使う計算用サーバや仮想サーバ、分散処理を行うための基盤等の構築、運用に携わってきましたが、NICTの業務では、JGN-X上で行われているネットワーク仮想化技術に関するプロジェクトの運用技術や利用のための支援を行っています。

ネットワーク仮想化技術というのはまだまだ聞きなれない用語ですので、その一部について簡単に説明します。まずはサーバ仮想化技術です。この技術を使うと1つの物理システム上に幾つもの仮想な独立システムを作ることが出来るようになります。この特徴を利用して容易に必要な分だけシステムを増やしたり減らしたり、動いている仮想システムを別の物理システムへ移動させ



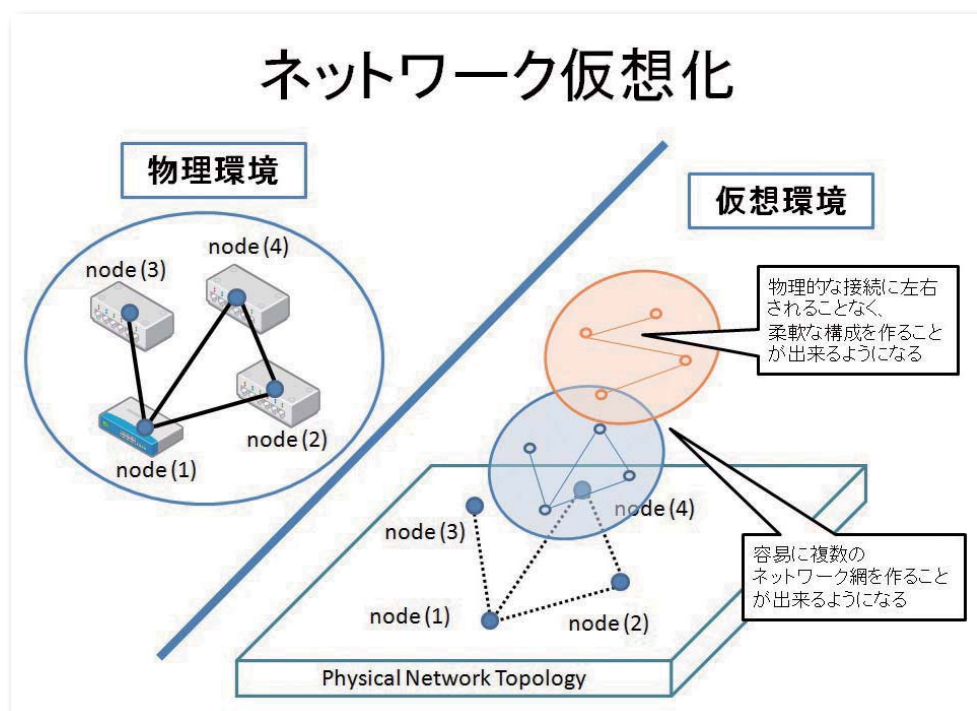
平成26年1月現在のJGN-Xネットワーク構成 (出展元:「JGN-X」Webサイトより)

サーバ仮想化



図：サーバ仮想化

ネットワーク仮想化



図：ネットワーク仮想化

る等の柔軟な対応が出来るようにもなります。サーバが柔軟に増えたり減ったり、移動が可能になると、それらをつなぐネットワークも柔軟に対応してほしいという要望が出てきます。その一つとしてネットワーク仮想化技術というものが提案されています。既存の技術だけでは物理的な接続に左右されることが多くありましたが、少し進んだネットワーク仮想化の要素技術が幾つも提案・実現されており、段々と柔軟性をもったネットワーク仮想化が実現されるようになっていきます。

元々はサーバ技術を中心とした業務を行っていたため、当初はネットワーク技術に関する知識が乏しく知ら

ないことが多くあり、中心的に運用を行っているメンバーとも話がかみ合わないこともありました。その都度、基礎的なことから教えて頂けたことや、自分でも日々勉強をしながら段々とネットワークに関する知識を蓄えつつ業務を行っています。実際に中古で安くネットワーク機器を入手し、自宅で構築や運用なども行ってみました。現在も、利用者の研究や実験の内容理解、運用の支援に必要な勉強と試行錯誤の連続ですが、先端技術の内容に携われる貴重な経験を積ませて頂いており、今後もこのチャンスを生かして行きたいと思います。



柿沼 整三
Seizo Kakinuma

パイロットになりたかった。しかし、高校3年の冬、航空大学校の3次試験に落ちた。途方に暮れていた時「蜚雪時代」で目にした建築設備。建築の給排水や空調、電気設備を専門とした技術者になることに希望を抱いた。そして、設備工学コースのある本学建築学科に入った。学生時代は学園紛争で勉学の機会が削がれ、良く麻雀をしていた。その影響もあり、必須科目である構造力学を落としていた。そのため4年で卒論に就けなかった。3年の後期に実験補手となり設備実験室に勤めながら、学生生活を送っていた。年上であるが市川さん(旧姓金杉)は武蔵工業大学(現・東京都市大学)の技術員をしながらの学友で、その後も大きな刺激を受けている。もう一人、伊藤ていじ研究室で助手をしていた中山繁信先生からも多くのことを学んだ。

卒業後、下元建築事務所に在籍しながら、本学の専攻科を修了と同時に中島康孝先生の研究室で委託研究の仕事を担当した。その時、武藤章先生設計の八王子校舎図書館の設備設計を担当することで、設備設計に目覚めた。独立当初は中山先生の事務所に居候していた。そこで、建築そのものを教えていただいた。その縁で、建築家大江宏先生の仕事に関わることになり、先の遷宮では、神宮美術館の設備設計を担当することができた。その後も、多くの建築家とコラボレートして設備設計を専門として

建築設備家への道なかば

■ 略歴

1950年生まれ

本学工学専攻科建築学専攻(中島(康)研究室)修了
建築設備家 現在、Z O設計室代表取締役、東京理科大学、武蔵野大学非常勤講師

主な設備設計:名古屋城能楽堂、ウエルシティ横須賀、市原湖畔美術館等、主な著書:「建築断熱の考え方」、「わかる建築設備」単著(オーム社)、「世界で一番やさしいエコ住宅」「建築家の名言」共著(エクスナレッジ)、「建築環境設備ハンドブック」、「考え方・進め方建築設備設計」共著(オーム社)他。

いる。

設計の仕事の傍ら社会的活動も続けている。非常勤講師は本学の専門学校に始まり、東京都立短期大学、関東学院大学を経て、現在は東京理科大学、武蔵野大学で続けている。それ以外にはベターリビング、東京建築士会、空気調和・衛生工学会での委員会活動をしている。

仕事はめまぐるしく色々関わっている。その束の間、趣味はフライフィッシング、主に溪流にヤマメ、イワナを求め釣行し、心静かに自然を満喫している。



フライフィッシングの仲間達

そして、ここ十数年は執筆が日常的となり、通勤電車の中は書齋同然となっている。単著は2冊しかないが、共著は20冊近い。その編集、執筆に中山先生や学友であった市川さん(首都大学東京名誉教授)らと共同する



工学院大学八王子図書館



著書表紙



道の駅やいたエコハウス

LCCM デモンストレーション棟



神宮式年遷宮記念美術館

機会も多い。

最近の仕事では、環境に配慮した建築の設備設計ができる建築設備家と言われるようになりつつある。建築家中村勉（元本学教授）との七沢希望ヶ丘初等学校、道の駅やいたエコハウス、LCCMデモンストレーション棟

等環境建築の設備設計者となっている。早2年は過ぎたが、京都にて、現在の伝統技能の粋を結集した数寄屋建築の設計監理に関わり、これからも1年以上は通う途上にあります。

自分のマインドで世界に羽ばたきたい



下田 夏帆

Kaho Shimoda

「野球が大好き」そこから始まった

チアリーディングを始めるきっかけとなったのは「野球が大好き」という理由からです。マネージャーという、ある意味でのサポーターではなくて選手・観客と一緒に戦うプレイヤーでありたいと考えていました。

今回チーム結成に至っては、顧問となる加藤充子先生からの誘いも大きかった。2011年（高校2年生）の夏はメンバーを募集したが応募人数が少なかったことから実現できませんでした。翌年、最終学年の年は、チーム結成に向けて情熱を前年以上に注いだ結果、総勢20名あまりのチームが結成できました。その時、不可能と思っていたことがこうやって現実になった。それは言葉にできないくらいの喜びがあったことを覚えています。

ユニフォームへのあこがれと興奮

各学校の応援団やチアリーディングを見ていると、身に着けているのは、統一の学生服やユニフォーム。私たちもそんな姿を見て、ユニフォームへのあこがれを募らせていました。ユニフォームを身に着けることによって、より華やかになり夢と感動を与えることができる。そう考えるだけで、とてもワクワクしていました。

■ 略歴

2013年3月 工学院大学附属高等学校
普通科卒業

2013年4月 東京エアトラベル・ホテル専門学校
エアライン科入学
(現在に至る)

2012年初夏、附属高等学校同窓会からチアリーディングチームにユニフォームを学園支援として頂きました。受け取った日、興奮してすぐに袖を通してひたすら踊っていました。そして、「記憶に残るような応援がしたい」と晴れの舞台に向けてひたすら練習に励みました。

チームのバトンをつなぐ

翌2013年夏、卒業した私は高校野球予選の試合会場に足を運ぶと、そこには後輩たちが精いっぱい踊っている姿が目映りました。自分たちがつくりあげた振付や曲で、精一杯応援している姿にうれしかった。本当は、客席を飛び出して一緒に踊りたくなるほど、興奮していました。ただ、その気持ちをどうにか抑えて後輩たちの成長を見守りました。そしてもう一つ、去年のチームより、さらに人数が増えていたことに驚きが隠せなかったです。そのとき、工学院女子の活動が活性化したということで、学校に大きく貢献できたという実感が沸きました。試合後に後輩からは「ユニフォームが足りなくなるほど、メンバーが増えたのでとてもうれしい」という声も多く聞いたこともうれしい悲鳴です。





未来へつなぐ合言葉

未来への合言葉として「挑戦」「創造」「貢献」を学校の教育方針として定めています。学校のサイバーテラスには、生徒が見える位置に大きく合言葉が掲げられ、生徒たちが大きく羽ばたいてほしいという思いが込められていると、感じます。チアリーディングの活動とこの合言葉は、共通していると考えていました。工学院の一員であるという実感。そして、活動を通して学校を一つにできたという一体感は、私を心から強くしてくれたように思います。

楽しかった高校生活

3年間の高校生活について、振り返ってみると、課外

活動と勉学を両立できたことは、とてもありがたかったと感じています。学習面での大きな支援、硬式テニス部やチアリーディングの練習に意欲的に取り組めた環境がとても合っていたためです。そして、今後は女子生徒がもっと増えて活発に活動していくことが、母校の発展に大きくつながるのではないかと考えています。そのためにも、高校野球の試合のように母校に帰りたと思っています。

さらに、チアリーディングの活動がもっと広まって、後輩たちにはもっと活躍してほしいです。そのためにも、校友の皆さんの支援がとても大切になってきます。今後も、後輩たちを見守ってほしいと切に願っています。

自身の未来に向けて

現在、私はキャビンアテンダントを目指して、日夜勉強に励んでいます。小学生のころからの憧れでした。その理由は「グローバル」という言葉が似合う仕事かと思ったからです。

チアリーディングの取組と共通する点は、人を元気づける仕事であるということです。チームもしくは会社の顔として人に感動と希望を与えられる。目標は、記憶に残るようなサービスを提供することです。

変えよう！変えよう！自分を変えよう！



市川 享司

Kyoji Ichikawa

この度、校友会広報部の会員より、大学生・高校生に向けた自己啓発や、将来性のあるお話を、私のこれまでの体験を通して紹介してもらいたいとの依頼を受けました。

まず、私ごとですが一昨年11月に名誉ある「**大勝靖一賞**」を受賞いたしました。受賞の主な理由ですが、第一に、私は、「日産自動車(株)の検査部・品質管理部(工場・本社で36年間勤務)を退職後、「パワーアップ研究所」を設立し、「**品質経営コンサルタント**」として活動(セミナー・企業内研修、講演・書籍執筆など)してきたことが認められました。さらに、(社)品質管理学会から**2001年度の第1回「品質管理推進功労賞**」を受賞したことや、その他の社会貢献をも含めて、総合的に評価いただきました。

さて、読者の皆様には、2011年2月刊行の『**人間力・現場力を高めるワンポイント講座**』(日科技連出版社)から、いくつか紹介したいことがあります。

まず本書のねらいについては、下記のとおりです。

* 好不況を問わず企業は、力のある“**人財**”(企業の財産となる人々)を求めています。これに対応するために私たち一人ひとりが自己の人間力を養い、現場力を高め、それを発揮していくことが必要です。

* 本書では、「**自立型人材(財)**」となるために、問題を発見し、解決する組織力、コミュニケーション力、変化への対応力、チャレンジ精神、創造性など「人間力・現場力を高める」ためのワンポイント講座として130編と多くの方法の提案・紹介を行っています。

* 昨今の厳しい企業・職場の環境下では、「**自立型人材(財)**」として、「**変革と挑戦**」を行って自らを修練し、生産性の高い仕事をしていくことが必要不可欠となります。具体的に130編の中から、特に読者の皆様にお伝えしたい四つのテーマを以下、紹介します。

1. 「大変」に挑戦し、自分を大きく変えよう

学習に限らず、何か新しいことを学んだり、引き受けた

りすることは大変なことです。そこで「**大変**」について考えてみましょう。

大変とは、字のごとく「**大きく変える、変わること**」であり、自分を大きく変える、変わるからこそ新しいことに挑戦し、学習する意味(価値)があります。

例えば、通信教育では、レポートの提出を通じて、やりがい、達成感、満足感、自信などを体得でき、自分を大きく変える絶好のチャンスともなります。**大変を体得できない人には成長は望めません**。現状維持の仕事や能力では退歩にも通じます。

一般的に新しい仕事・学習が難しく重要度が高いほど、その仕事・学習に対する存在価値があるといえます。大変から逃げる、あるいは何も挑戦しないのでは、自分を大きく変えていくことはできません。**変化のないところからは、新しい価値は生まれません**。

大変な仕事に挑戦し、学習することで、自分としての存在価値を発揮し、自分を大きく変えていくことができます。



2. 自己投資で、自分磨きを

近年の若手の社員は、上司や先輩から指示された仕事を無難に行い、自分からは積極的に新しい仕事に挑戦することは好まない傾向にあります。それは、仕事以外の生活や趣味に喜びや満足感を求めているからではないで

しょうか。会社は、改善の積み重ねによって維持・向上し、発展していきます。

最近、20代の若者にお金の使い方を聞いてみると、50年も先の老後を考えて貯蓄する人が増えてきています。将来の不安が大きい世の中だからこそ、当然のことかもしれませんが、日本の将来のことを考えると、なんとなく寂しさを感じます。

会社（仕事）や学校に将来があるのではなく、自分に将来があるのですから、もっと自分に投資をし、自分磨きをして、幅広い専門知識や固有技術（技量、スキル）を身につけたらよいと思います。会社は、改善の積み重ねによって維持・向上し、発展していく組織ですから、その中でリストラされても困らない自分を築き上げていくことが重要です。加えて、若いうちに、会社だけのお付き合いではなく、できるだけいろいろな人に会い、いろいろな経験や資格をとり、その中で自分のスタイルや生活パターンを築きあげていくことが重要です。

3. 出会う人、すべてが先生

頭は使えば使うほどよくなっていきます。これは生理学的にも実証されています。私たちの脳細胞は、約140億個から成り立っていますが、一生の間で使う脳細胞は、10%足らずであるといわれています。これはとてももったいないことです。

社会に出ても、企業に勤めても勉強は必要です。常に学びとろうという姿勢を持っている人は、これからも、どんどん伸びていきます。

社会や企業はとまることなく、変化・進化を続けてきています。過去に身につけた知識や知恵だけでは、いつまでも通用しません。「毎日が勉強だ」「出会う人すべてが先生だ」と考えて仕事や生活を営んでいくことが必要です。勉強は日々の仕事の中でいくらでもできます。例えば、人の話を聴いてメモをとり記録に残すのも勉強です。会議録や報告書を作成するのも、とり方や書き方についての工夫が勉強になります。知識や情報を得るために本を読んだり、新聞を見たり、ラジオを聴く、テレビを見るのも勉強です。もちろん仕事を通じて、固有技術や管理技術を高め、仕事の幅と深みを広げていくのも不断の努力が必要であり勉強です。

4. 目的・目標、夢をもち、一生懸命な人は成長する

人間の一人ひとりの潜在能力、あるいは可能性は、ほとんど変わらないそうです。問題は、一生のうちにその人が何に打ち込んだか、一生懸命（一生涯＝終生、命をかけるほど、物ごとに熱心に努力し、結果として成果を残すこと）になったかどうかです。それによって差が広がってきます。天才と凡人の差は、この点からも生じてきています。つまりその人が、自分の能力やエネルギーを

集中できる目的・目標、夢をもっているかどうかで天才か凡人かが決まるそうです。

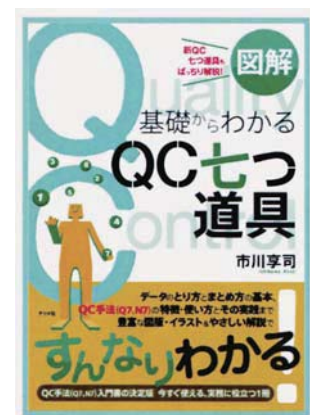
私たちも、何かの専門知識・固有技術、管理技術を身につけようと決心して、そのことに一生懸命打ち込めば成果も出て、必ず成功するものです。

あるベテランの方によると、どんなことでも毎日30分の勉強を、365日、1日も休まず続けたら、10年経たないうちに、必ずその道のプロになって成功するそうです。私たちも、何かに打ち込めるものを見つけて、一生懸命取り組んでいきましょう。

ご参考になったでしょうか。本書『**人間力・現場力を高めるワンポイント講座**』はお陰さまで、発行2年目で3版にもなり、2013年より毎年2回、本書を用いてのセミナーが（一財）日本科学技術連盟より開講されるようになりました。

また2012年には「ナツメ社」より、『**基礎からわかる品質管理**』と『**基礎からわかるQC七つ道具**』を刊行いたしました。内容的には“**QC検定3級対応**”レベルです（QC検定は、累計受講者約40万人「2013年9月現在」、注目されている検定です）。上記の書籍などで皆様勉強されて、**就職前にQC検定を受験し、資格を取得されることを、一著者として期待しています。**

“会社（仕事）・学校に将来があるのではなく、自分に将来がある”のです。そのためにも、**たくさん本（自分の土台づくり）を読み、そして実践し、成果をあげていきましょう。**



全国の支部から

富山県支部



伝統の「東京理工六大学 OB ゴルフ大会」

富山県支部長 藤井 裕久

富山県支部では、東京工業大、東京電機大、東京理科大、芝浦工業大、東京都市大（旧武蔵工業大）と実行委員会を組織し、北陸の名門・呉羽カントリークラブにおいて、過去25年間にわたり「東京理工六大学OBゴルフ大会」を開催している。毎回60名ほどが参加するこのコンペは、高い競技性はもちろんのこと、県内外で活躍する各校出身者の貴重な懇親と親睦の場となっている。工学院大学富山県支部は、昨年の第25回大会を含めて過去8回の優勝を誇り、昨年は熊谷郁郎先輩が個人の部を制したほか、丸山哲夫先輩・石谷吉孝先輩がそれぞれ過去3回の個人優勝を飾るなどの活躍を見せている。今後も東京理工系六大学OB会の発展のため、当支部も積極的に関わって行きたい。



島根県支部



中国ブロックで「セミナーと交流会」

島根県支部長 矢田 和弘

中国地方各県（広島・山口・島根）の会員が、親しく交流する集まりを数年毎に開催しています。

一昨年は島根が担当し、中国ブロック主催で一般の人を対象にしたセミナー（第1部「ロボットセミナー」。第2部「ロボットQ&A」）を、出雲市科学館で開催しました。講師は、前大学学長の三浦宏文先生にお願いし、170～180名の参加者がありました。

その後会場を移し、三浦先生を囲み本部の来住さん、事務局2名、3県の会員と同伴者が一堂に会し親しく交流しました。

翌日は秋晴れの下、60年に一度の大遷宮でにぎわう出雲大社の参拝をはじめ、出雲地方を観光しました。

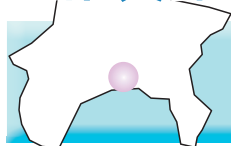
この企画は、校友会本部と学園のご理解と、温かいご支援がありました。改めてお礼申し上げます。

2014年秋には、鳥取県支部も参加し、会場を米子市で開催しようと福元鳥取県支部長と相談中です。

岡山県も早く参加いただき、名実共に「中国5県ブロック交流会」となるよう願っています。



湘南支部



「湘南支部の地引網」

湘南支部長 志村 豊



鎌倉や江の島で有名な湘南海岸に位置する当支部は、毎年6月末に地引網を開催します。

梅雨時の屋外行事ですから、お天気が心配ですが、晴れたら夏の灼熱の太陽で肌は真っ赤に日焼けです。地引網は大人も子供も力を合わせて網を引くのが楽しいですね。そして、網を引いた後に飲む冷えた缶ビールが喉にしみます。鰹やシラスが大漁に獲れた時はとても感激です。生シラスを食べただけ食べて、残りは釜茹でにして鰹と一緒に御土産です。

魚が獲れなくても、恒例となったB級グルメ、東松山の辛味噌を付けた焼きトンの屋台があります。これも旨い。湘南支部の地引網は、飲んで食べるの宴会で大いに盛り上がります。



福井県支部



「渡邊洪基先生の墓前に参る」

福井県支部長 浜田 肇

昨年度から、校友会福井県支部長を務めさせて頂いています浜田でございます。福井県支部の会員は現在120名余ですが、支部総会での会員参加数や、支部役員の高齢化、事業のあり方に苦慮しているところです。

しかし、我が福井県支部の誇れるところは、「渡邊洪基」先生を輩出した地（1847年旧武生市京町二丁目にて出生）であるということです。

ご存じのとおり「渡邊洪基」先生は、工学院大学の前身である「工手学校」を創設された方であり、岩倉具視欧米視察使節団随員（1871年）、第9代東京府知事（1885年）、東京帝国大学初代総長（1886年）、オーストリア特命全権大使（1890年）、衆議院議員、貴族院議員などを歴任し、近代国家創造の「夢」を果敢に追い求め、学問、外交、政治、経済等の各分野で活躍されました。

墓は東京麻布の永平寺別院長谷寺と、福井県越前市武生柳町の浄土真宗本願寺派養徳寺内、渡邊家分霊塔に分納されています。福井県支部では、7～8年前から「渡邊洪基」先生のお墓参りを恒例にしています。毎年5月24日の命日と、たけふ菊人形が終わる11月で、週末の好天日に墓参、顕彰板・案内板・墓石の清掃を行い、越前蕎麦を食して我々も「夢」を語りあっています。



平成18年11月25日 養徳寺にて撮影 工学院大学と校友会が整備した顕彰板



御子孫の渡邊浩様、渡邊暢久様備した顕彰板



同窓会から

■機械系同窓会

校友の皆さん、こんにちは。機械系同窓会の会長をしております田中です。このページでは機械系同窓会の今年度のトピックの紹介をしたいと思います。機械系同窓会が会員の皆さんのために毎年主催する大きなイベントが二つあります。一つは初夏の頃に行っています「活躍するOB・OG 報告会」で、ここ3年は「NR500 楕円ピストンエンジン開発秘話」、「自動車衝突実験における衝突試験計測システムの開発」、「我がワッパまわし人生・モータースポーツ草分け時代を語る」と題して続けました。

二つ目は秋に開催しています「秋の集い」で、こちらは工学院大学の先生方の最新の研究について講演をお願いしています。ここ3年間は、「製品の信頼性・安全性を確保するシミュレーション」、「マイクロマシン、小さいからこそ出来る新しい機械」、「東日本大震災とレスキューロボットの現状と今後」という演題で続けました。

いずれも、お話の後に懇親会があり、飲んだり食べたりしながら、会員の皆さんが思い思いに交流をはかっています。毎年このイベントの案内は同窓会誌 KUMEA やホームページに掲載しています。講演などへの参加は無料ですが、懇親会への参加は参加費を頂いています。毎回面白い話が続き、OBの活躍や、工学院大学の最新の研究状況を、肩の凝らない和やかな雰囲気、知ることが出来ます。まだ、一度も参加されていらっしゃらない方は是非次回からお出でになってみてはいかがでしょうか。



■化学系同窓会

化学系同窓会は、同窓会として最も古い歴史を持っています。旧「応化会」として発足、63周年目を迎えます。埼玉全国大会に合わせ、10月18日、新宿校舎にて創立60周年記念式典を行うことになりました。

大学の学科名の変遷につれ、「応化会」からより分かりやすい「化学系同窓会」との名称に変更し、同窓会のさらなる活性化を図るべく、新規会員の発掘と若い会員の増強に取り組んでいます。化学系同窓会の具体的な活動は次のとおりです。

* 化学系教職員とのコミュニケーションの充実（先生方のご意見を拝聴するための情報交換会、および会誌作成において在学生諸君を交えた協力体制）* 「応化会の夕べ」（主に同窓生を講師として年10回ほど行なっています）に化学系の各先生方に講師をお願いし、所属研究室の学生諸君や卒業生にも声をかけていただき、校友が同席した講演会を行っています。

* 学科行事の研究室対抗のスポーツ大会の参加協力* 研究室ツアー、イブニングセミナーへの援助、* 工場見学の協力などを行っております。



■電気系同窓会

電気系同窓会では日帰りバスツアーを同窓生の親睦の場として毎年実施しています。今年は9月29日（日）に大人も子供も楽しめる都心のオアシス恩賜上野動物園に行きました。当日は、校友とその家族30名が参加し、思い出多き楽しい一日をすごしました。

今回は引率者が校友ということもあり、園内でも技術職員しか立ち入らない非公開の施設でもある水処理施設、シロクマ・アザラシの水の循環・濾過設備、動物園の地下に広がる広大な共同溝、そして、パンダが日本へ初めて来た際に使われた貴重な輸送箱（ちゃんと保存してあります。）など、めったに見ることができない設備や貴重な資料を見学することができました。（新井 英伸）



■建築系同窓会

「建築学部同窓会誌 NICHE は、変わります」

同窓誌 NICHE は、今春から2冊に分けて発行することとしました。1冊は、その年度で特集企画した内容を、MOOK 版として充実させ、一般社会に対してアピールします。記録に残せる保存版です。

これはインターネットで市販致します。第1号の企画は「特集：世界に羽ばたけ！・イギリスハイブリット留学・ミラノ工科大学国際交流」の特集です。

2冊目は、ダイジェスト版として MOOK 版の概要を掲載するとともに、対象者を本学関係者にスポットをあて、同窓生への様々な情報に特化して発行します。

また、本年度からは「NICHE」ホームページもリニューアルし、タイムリーな情報や、同窓生が必要とする情報を提供していきたいと思えます。

この事業を展開するために「NICHE 出版会」を立ち上げ、同窓生や教員の著書・作品集などを、今後継続的にサポートできる体制を整えたいと思えます。(澤崎 宏)



■附属高等学校同窓会

附属高等学校同窓会は、20歳代前半から70歳代まで多くの方々の協力の下に運営しています。とりわけ20代の面々は活気があり様々なアイデアが溢れ出てきます。またベテラン勢は適切な助言と指針を示しバランスのとれたとても良い雰囲気同窓会です。

高校の先生方の中にも同窓生がおり、同窓会は学校行事を積極的に支援しています。

高校文化祭である「夢工祭」では同窓会の若手が喫茶談話コーナーを開設しており、OB・OGが立ち寄っては旧友や先生方と語り合い楽しい時間を作っています。東京ビックサイトで行われる「エコプロダクツ」への出展や「高校野球」の応援、「バスケットボール教室」の支援などでは、寄付を含めバックアップを行っています。

同窓会ホームページの他に公式 Facebook も立ち上がり、多くの方に情報発信を行うようになりました。少しでも現役の生徒諸君や先生方の役に立つよう頑張っています。このような同窓会活動に参加できる方をお待ちしています。(飯塚 辰典)



■専門学校同窓会

専門学校同窓会は昨年3月創立50周年祝賀会を開催しましたが、4月からは一般社団法人工学院大学校友会専門学校同窓会として再出発しました。

専門学校が廃校になったため、新しい会員を迎えることは出来ませんが、現会員で活動しています。この1年の活動は、

- ① 2013年5月26日：校友会社員総会に合わせて、報告会・意見交換会を22名出席のもと実施しました。
- ② 2013年11月9日：横須賀市にある記念艦「三笠」の見学会を実施しました。参加者は10名でした。見学会の後、久里浜で懇親会を実施し交流を深めました。
- ③ 2013年12月14日：一般社団法人工学院大学校友会専門学校同窓会の発足を記念して祝賀会を京王プラザホテルで参加者43名のもと実施しました。今年度も見学会等企画していきますので、多数の参加をお待ちしています。

(阿部 洵)



OB 会から

今年も早朝から東京マラソンで100名がボランティア活動

体育会連合OB会

第8回東京マラソンは、2014年2月23日（日）の曇り空の朝、3万6千人の市民ランナーが一斉に都庁前をスタートして始まりました。沿道には113万人の観衆の声援が響き、ランナーたちは北風吹く繁華街を駆け抜けました。

今年も本学からは、中田卓司（情報メディア工学科3年 ボクシング部）鈴木次男（1981年建築卒 空手道部OB）坂本武治（1992年建築卒 柔道部OB）の3名のランナーが完走しました。私達も沿道で大学のノボリを立て大きな声援を送りました。

我が工学院大学は都庁の隣に位置していることから、第3回から新宿キャンパスに於いてボランティア活動を行っています。活動内容は、トイレ（B1F～4F）及び着替え場所（B1Fホール、1Fアトリウム）の提供で毎年約2000名のランナーに喜んで頂いています。また、大学前を通るランナーに対し大学ロゴ入りハンドタオル3000枚を配布しながら声援を送りました。

今年も体育会学生を中心に大学教職員、後援会、校友会の皆さん約100名に早朝から協力を頂きました。中でも校友会からは、今年も資金面でも支援を頂きました。

引き続き「オール工学院大学」として地域貢献活動を継続したいと考えております。これからも皆様のご声援をお願いします。



グリークラブOB会合唱団について

グリークラブOB会

結成は平成16年（2004年）、今年で11年目になります。恒例の年間活動は1月「新春の集い」、6月「体育会OB連合会」、10月「八王子祭」、11月「新宿祭」出演です。特記すべきは①2012年11月の工学院大学125周年の栄えある記念式典で大学校歌を歌ったことです。②は2012年7月に大学内アーバンテックホールで家族、友人、知人をお招きして「ファミリー・コンサート」を開催し、好評を得ました。私たちの活動の原点は再び「現役学生による“工学院大学グリークラブ”」の再建です。最後になりましたが、これまで私たちグリークラブOB会の活動に対し、練習会場の提供、各行事への参加要請など、支えていただきました大学、校友会の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

2014年（平成26年）3月12日

グリークラブOB会会長 山田伸一

原稿 石田靖夫

メンバー、常時練習時20～30人



2014年新春の集い



2013年八王子祭



体育会OB連合

総務部

総務部長 菊地 正

1. 平成 25 年度校友会第 1 回社員総会および懇親会の開催

平成 25 年 4 月 1 日に一般社団法人に移行して初めてとなる校友会社員総会を、平成 25 年 5 月 26 日（日）に開催しました。

総務部会は、4 月 11 日に第 1 回、5 月 10 日に第 2 回、5 月 25 日に第 3 回の部会を開催し、第 1 回社員総会開催に向けて万全の準備を進めた結果、代議員の皆様、各部会の皆様の御協力も得られ、スムーズな議事進行が出来ました。

次年度の社員総会に向けて、5 月 31 日の第 4 回総務部会で、第 1 回社員総会の運営に関する反省会を行い、総会準備タイムテーブルの見直しを行いました。

2. 各規則類の改訂

総務部会は、毎月 1 回（全 13 回）部会を開催し、一般社団法人移行に伴う新たな定款に従い、各種規則類の見直し作業を行いました。今までに 30 余の規則類の大半は見直し作業が完了し、今年度中には全ての規則類の見直し作業を完了する予定です。

3. 次回代議員選挙の準備

平成 26 年度に行われる、次回代議員選挙に関しては、煩雑な事務作業の日程調整と、選挙費用の低減を目指し、事務局と一丸となって準備作業を進めております。

4. 理事会の開催および、部会連絡会の開催

理事会 10 回、部会連絡会 3 回を開催しました。



財務部

財務部長 阿部 洵

1. 平成 24 年度収支決算処理および平成 25 年度収支予算案をまとめ、5 月の社員総会で報告した。

特に問題なく、承認された。

2. 校友会会計処理チェックと残高確認の実施。

3 か月単位で年 4 回実施した。

3. 校友会監事による単体同窓会の会計監査（平成 24 年度）を支援した。

機械系…8 月 23 日に実施した。

電気系、附属高等学校…8 月 24 日に実施した。

化学系、建築系、専門学校…8 月 30 日に実施した。

例年通りの内容で実施し、特に問題はなかった。

通帳の名義を一般社団法人〇〇同窓会名に変えるように伝えた。

4. 維持協力費の増収についての勉強会を実施した。

支部の活性化を図る目的も含めて、維持協力費をいかに増収させるか、今年度の振込状況を分析し、分析結果を基に 増収を図るべき施策を検討した。



5. 公益目的財産額についての勉強会を実施した。

内閣府の指導により、平成 32 年度末までに公益目的財産額を零にしなければいけないので、その目的を達成するために校友会事務局員を含めて勉強会を実施し、予算に反映するようにした。

6. 平成 26 年度の収支予算案を作成した。

広報部

広報部長 田中 英生

広報部の活動は大きく二つあります。校友会報の発行と校友会ホームページの運用です。

校友会報については、広報部の編集部会を月に1度のペースで開き、今年度は「読んでもらえる校友会報とはどうあるべきか」という原点に立ち戻り、昨年までの内容を大幅に見直しました。これまでも掲載している企業などで活躍中の同窓生の現況紹介や校友会各部の活動計画・報告などに加え、全国にある支部や各同窓会活動のトピック等を新たに取り上げました。各記事のご執筆者への原稿依頼から印刷会社との数回にわたる原稿校正、企業への広告のお願い、などなど、盛り沢山の仕事を部員で手分けをして進めました。

又、ホームページも同様に、従来からの全体に面白くないという声に対し、校友の皆さんに見やすく、かつ面白く見て頂くためにはどうあるべきかという原点に立ち戻り、リニューアルの拠り所となるべき初のアクセス調査を行いました。データをホームページのどのような記事に皆さんが関心を示すかなどを昨年9月一か月かけて収集し、分類・整理しました。その結果を参考に、支部のページの充実や校友会の詳しい紹介、出来るだけ多くの校友企業さまのホームページへリンクすることなどに対応する基本骨格の組み直しの作業を行いました。

今まで以上に校友会の様子、校友の活躍、学園や校友企業さまの様子が校友に届けられ、校友間で有益な情報が共有されると思います。この図式が定着するよう部員一同頑張りますのでご協力をお願い致します。



同窓会組織部

同窓会組織部長 小沢 和重

- ①定例会部会 12 回、臨時部会 1 回開催した。初年度のため、活動計画立案に時間を掛けて検討・策定した。また、「同窓会の組織化・活性化」のための会議体「(仮称)校友会活性化推進会議」の設置検討(②で報告)に時間が掛かった。「新春の集い 2014」の内容検討及び準備については、7/22の第4回定例会部会から討議を始めた。9/17の第5回定例会部会には、前回の新春の集いを担当した旧組織事業部のメンバーにも参加いただき反省点等のお話を伺った。
- ②「同窓会の組織化・活性化」を具現化するため「(仮称)校友会活性化推進会議」の設置については、部会及び理事会で数度の議論を経て、「同窓会長会議」と称し、運営規則を7月に制定した。年度内には初会合を開催予定。
- ③「新春の集い 2014」は、平成26年1月12日(日)に行われ、多くの校友に参加いただき大盛況な集いとなった。校友参加目標420名に対し、430名の参加があり、校友家族、来賓、イベント参加の学生を加え490名の参加となった。しかし、改善課題も多々あり、次回更なる改善を行い、参加校友に満足してもらえる新春の集いにしたいと思う。
- ④学術講演会については、活動計画立案や同窓会長会議の設置に時間が掛かり、内容検討・準備の時間がなくなり7月に開催できず、3月22日に博新会と共同開催した。テーマは「研究成果を皆が使える形にする!~聴覚心理学の産業応用を志して~」、講師は株式会社オトデザイナーズ代表取締役 坂本真一氏をお願いした。次回は同窓会組織部の運営も2年目となり軌道に乗るので早めに計画を進め開催したい。
- ⑤以下の校友会行事及び学園行事へは、部から全ての行事に参加した。

- ・校友会総会(5/26)への準備及び全員参加。
- ・石巻科学教室(6/22~23)への参加。
- ・八王子科学教室(8/24~25)への参加。
- ・支部長会(11/2)への出席。
- ・ホームカミングデー(11/3)への参加。



支部組織部

支部組織部長 谷 政美

支部組織部は校友会が一般社団法人へ移行した平成 25 年 4 月 1 日に地域支部に特化した「部」として、組織・事業部から分派し設立されました。

部の活動は①本部と支部の架け橋になる。②支部に対するサービス部門として支部と一緒に考え、行動することをモットーにしています。

平成 25 年度は支部組織部の業務分掌に則り、次の活動を実施しました。

1. 地域支部の一般社団法人移行支援

従来の 51 地域支部が全て一般社団法人に移行することを目指し、支援を実施しました。その結果、40 地域支部が移行を完了し、新たに奈良県支部が設立されました。今後、設立に際し、各支部から指摘された事項を真摯に受け止め、支部運営規則の充実を図りたいと考えています。

2. 本部と支部の意思疎通を図る

全国で開催された、報告会兼意見交換会には積極的に参加し、結果的に開催 32 支部中 28 支部の会合に参加しました。

3. 支部活動支援金の増額と有効配分の提案

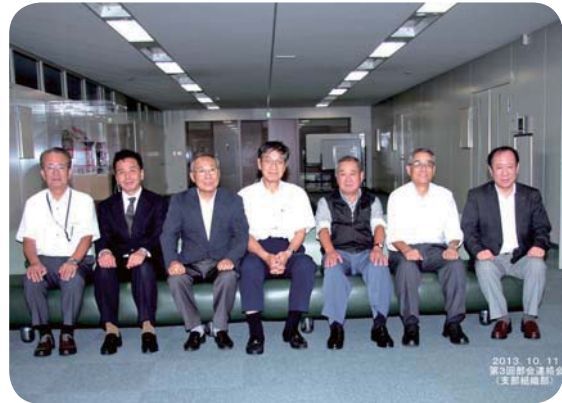
支部活動を活性化するための一助として、「支部活動指数」を導入し、支部活動支援金の増額を本部に提案し、平成 26 年度から実施できる見通しになりました。

4. 全国支部長会開催

全国支部長会を新運営にて、平成 25 年 11 月 2 日に初めて八王子校舎で開催し、移行完了 40 支部のうち 37 支部出席、委任状提出 3 支部で実質的に全支部参加となりました。

5. 全国（埼玉）大会支援

平成 26 年 10 月 18 日・19 日に開催される、全国（埼玉）大会の成功を期して、実行委員会と連携して努力中です。ぜひ全国校友のご参加をお願い致します。



学園連携部

学園連携部長 福田 忠彦

業務分掌に基づき、一般社団法人移行後の公益目的支出計画を完遂すべく継続性を重視しつつ新しい課題に挑戦しています。

先ず前年度からの申し送り事項として ①卒業生バックアップセンターの再構築 ②校友子女の特別選抜制度に代わる制度の再構築、③ホームカミングデーへの参画・実施、そして今年度の主要なテーマとして ④新たに傘下となった企業支部（含む学園支部）・体育会連合 OB 会との連携・強化 ⑤学生生徒の奨励事業 ⑥後援会との連携強化など着実に推進してまいりました。

中でも特筆すべき点として

1. 企業支部（含む学園支部）、体育会連合 OB 会、との連携強化

これまでの支部組織部傘下での活動の実態を踏まえ、より自由度の高い活発で充実した活動ができるよう支部運営規則を見直し、新たに OB・OG 会運営規則を策定し展開しました。既に支部として新組織を構築された支部についてはそのまま OB・OG 会に移行して頂き、その他の支部については各支部の実状に合わせて順次新体制への移行を進めて頂くことしております。さらに新しい組織作りも進めてまいります。

2. ホームカミングデーへの参画・実施

今年度初めての試みとして、八王子キャンパスでの開催、案内や参加申し込みの方法を従来の郵送による卒業年次 5 年毎の案内から、研究室単位に変更、かつ Web を中心とした方法を採用し昨年 11 月 3 日開催されました。いくつかの改善点が残ったものの若い方々の参加が増え、これまでも増して活気のある会となりました。なお、2014 年度は 11 月 1 日（土）の開催となります。案内も Web 中心となりますが多くの校友の参加を期待しています。

3. 学生生徒の奨励事業

優秀学生の表彰やプロジェクト活動支援など従来どおりに実施しました。中でもソーラーカープロジェクトの世界大会出場に関しては別途 6 同窓会にも協力を頂きながら校友会として特別に 200 万円の援助を行いました。

昨年 6 月 22、23 日に行われた石巻出張科学教室では校友 20 名が初めて参加協力しました。学園連携部員の他、校友会各部の代表、そして地元宮城、福島両支部の 7 名の方々にもご協力を頂きました。

その他、バックアップセンターの再構築に関しては、プロジェクトチームを作り年度内に方向付けを行うことで進めています。また、大学後援会との連携強化策として、校友会本部のほか 15 の支部からも 2014 年度後援会父母懇談会へ参加の予定です。



2014 年度校友会の主な行事予定

開催予定日	行事予定	開催場所	問合せ・参加申込先
5月25日(日)	第2回校友会社員総会 (同時開催:各同窓会報告会兼意見交換会、懇親会など)	新宿校舎	校友会事務局
5月26日(月)	2014年度全国支部長会	新宿校舎	電話:
10月18日(土)	第17回全国大会・埼玉大会	新宿校舎	03-3342-2064
10月18日(土)	化学系同窓会60周年記念式典	新宿校舎	03-3340-1649
10月19日(日)	第17回全国大会・埼玉大会ツアー 川越・大宮他	川越・大宮	ファックス:
11月1日(土) ～10日(月)	立候補受付(代議員選挙)	郵送、FAX、 Eメール	03-3342-2035
11月下旬	ホームページ上で立候補者名簿公開(選挙公報)	校友会ホームページ	Eメール:
12月1日(月) ～10日(水)	投票受付(代議員選挙)	郵送、FAX、 Eメール	jimukyoku@ kogakuin.or.jp
12月22日(月)	選挙結果公表(代議員選挙)	校友会ホームページ	
1月11日(日)	新春の集い2015	新宿校舎	

※ 校友会ホームページ (<http://www.kogakuin.or.jp>) もご覧ください。タイムリーで詳細な行事予定が掲載されています。

学生・生徒の表彰報告

2013年5月26日に開催された工学院大学校友会第1回社員総会において、工学院大学学園の以下の諸学校の学生・生徒が成績優秀者として、校友会から顕彰され、長嶋秀世校友会会長から表彰状と副賞(高校生以上は現金5万円、中学生は2万円相当の図書カード)が贈られました。表彰される学生・生徒は、毎年校友会が依頼し、諸学校から推薦されます。

大学院	専攻	氏名	工学部1部	情報通信工学科2年	小池 将史
	機械工学専攻2年	加瀬 光輝	情報学部	コンピュータ科学科4年	佐々木信一
	化学応用学専攻2年	佐藤 友昭	情報学部	情報デザイン学科3年	嶋田 京輔
	電気・電子工学専攻1年	池間 優司	建築学部	2年	大野 慎弥
	情報学専攻1年	相江 政貴	建築学部	2年	深田 隼人
	建築学専攻2年	松山 美樹	建築学部	2年	神戸美奈代
			工学部2部	建築学科2年	栗原 博
大学	専攻	氏名	附属高等学校	学年	氏名
工学部1部	機械工学科2年	内山 晃太		中高一貫コース3年	青木佑生菜
工学部1部	機械システム工学科2年	野沢 由輝		普通コース3年	小宮 佑介
工学部1部	機械システム工学科2年	原 靖成		普通コース2年	飯田 正暉
GE学部	機械創造工学科2年	木下 航			
工学部1部	応用化学科2年	荻原駿太郎	附属中学校	学年	氏名
工学部1部	環境エネルギー化学科2年	西下 仁人		3年	落合 諄哉
工学部1部	環境エネルギー化学科2年	布川 知輝		2年	佐藤 弘基
工学部1部	電気システム工学科3年	荻原 弘二			

訃報

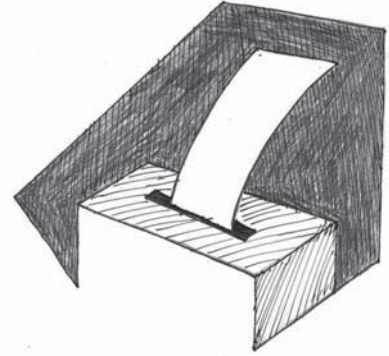
次の方々をご逝去されました。ご生前のご活躍を偲び謹んでご冥福をお祈りいたします

元専門学校校長	大勝 靖一氏	平成25年3月29日ご逝去	元機械システム工学科教員	横山 倉三氏	平成25年8月2日ご逝去
元西東京支部長	菊池 誠氏	平成25年4月ご逝去	元校友会理事	住野 和男氏	平成25年9月25日ご逝去
名誉教授	十代田昭二氏	平成25年4月27日ご逝去	元専門学校教員	小野 伸雄氏	平成25年10月2日ご逝去
島根県支部元監事	牧戸 捷弘氏	平成25年5月7日ご逝去	和歌山県支部長	幅 久芳氏	平成25年12月1日ご逝去

第2回代議員選挙について

2014年度は、2年に1度行われる代議員選挙の年です。

- 工学院大学校友会の正会員（学校法人工学院大学の設置する諸学校（以下、学園）出身者で会費を納めた人）は、等しく代議員選挙に立候補することができます。（ただし就任時75才未満であること）
- また、正会員は等しく代議員を選出する権利を有しています。（ただし、選挙管理委員は除く）



【代議員の役割】

一般社団法人工学院大学校友会は、学園の教育事業への援助、学園出身者相互の親睦提携、学園および地域社会の発展に貢献することを目的として活動しています。活動にあたっては、代議員（法律上は一般社団法人工学院大学校友会の社員となります）で構成する社員総会で、役員を選任や事業運営上の重要基本事項を意思決定し、その決定に基づいて校友会各部や同窓会、全国の支部などが多種多彩なイベントを行っています。校友会の役員（理事、監事）も代議員の中から互選されます。

積極的に立候補、投票して校友会活動を盛り上げましょう。

第2回代議員選挙スケジュール

2014年4月～5月	代議員選挙についてのご案内（本誌とホームページ）
2014年11月1日（土）～10日（月）	立候補受付
2014年11月下旬	ホームページ上で立候補者名簿を公開（選挙公報）
2014年12月1日（月）～10日（水）	投票受付
2014年12月22日（月）	2015年4月1日付け ホームページ上で選挙結果公表（新旧代議員交代）

☆立候補の方法

2014年10月頃に校友会のホームページ上に立候補届け用紙をアップしますので、ダウンロードして、必要事項をご記入の上、校友会事務局宛てに郵送、FAXまたはEメールでお送りください。

☆選挙投票の方法

本頁下部にある投票用紙を切り取り、投票人の会員コード（本誌送付時の宛名紙に書いてある10桁の数字です）、個人パスワード（本誌送付時の宛名紙に書いてある4桁の数字です）、ご氏名と、投票される候補者1名の氏名をお書きの上、校友会事務局宛てに同封の返信用封筒による郵送、FAXまたはEメールでお送りください。FAXまたはEメールで投票される場合にも会員コードと個人パスワードが必要ですのでご注意ください。

☆立候補・投票における注意事項

- ・出身同窓会（6同窓会のいずれか）が立候補者・投票人の選挙区になります。
- ・複数の同窓会に所属されている方は、一つの選挙区を選択して立候補、投票してください。
- ・Faxによる投票は、送信後電話での受領確認をお願いします。

☆お問い合わせ

代議員選挙についてのお問い合わせは、校友会事務局をお願いします。
連絡先は、46頁の上部表中にあります。

キリトリ線

第2回代議員選挙投票用紙

投票人	会員 No. (10 桁)	氏名	
	個人パスワード(4桁)		
候補者	この枠の中に候補者1名の氏名をお書き下さい。		

校友会談話室のご利用について

新宿校舎の高層棟 28 階にある校友会談話室は、校友会員間の親睦や同期会、サークル等でご利用いただけます（16 名程度まで）。日曜・祝祭日・学園休日を除く 9 時から 17 時までご利用可能です。セルフサービスのコーヒーを用意しておりますので、会員の皆様が東京・新宿においてになった際は、どうぞお立ち寄りください。

ご利用のお申し込みは、校友会事務局（E-mail:jimukyoku@kogakuin.or.jp、電話：03-3342-2064）にお願いします。



ファカルティクラブのご利用について

新宿校舎中層棟 8 階にあるサロン調のファカルティクラブ（写真）は、会員の方々が校友会事務局経由で利用申し込みをされた場合には、利用料が無料となります（50 名程度まで）。同窓会、支部・クラス会、懇親会等にご利用ください。

ご利用のお申し込みは、校友会事務局（E-mail:jimukyoku@kogakuin.or.jp、電話：03-3342-2064）にお願いします。



//////////////////// 工学院大学オープンカレッジ鉄道講座のご案内 //////////////////////

工学院大学オープンカレッジは、広く社会の皆さんへ学びの場を提供しています。科学系を中心に、歴史、文化、教養などの 160 の講座を開講しています。

なかでも鉄道講座は、工学院大学の特性を活かした講座です。2014 年 1 月 11 日に開催した特別講座には 203 名が参加し、校友から「母校がこんな素晴らしい取組みをしているとは誇らしい」との声もありました（工学院大学 facebook 参照）。

4 月からは講座企画と運営をリニューアルし、鉄道技術に関する専門知識の習得はもちろん、講師との直接対話や他の受講者とのネットワーク構築もできることを心がけて準備しております。そして、鉄道の未来を拓く人材と熱意と知恵が集まるプラットフォームとなることを目指しています。

「基礎講座」は、8 講座からなり（表参照）、鉄道全般を 2 年間で一通り学べるカリキュラムです。本学の曾根悟特任教授と高木亮准教授並びに学外講師 11 名が担当し、火曜日 19:00-20:30 の開講です。

「トピックス講座」は、様々なテーマを取上げて専門の講師が解説します。1 回ごとに申込み、水曜日 19:00-20:30 と土曜日昼間の開講です。

卒業生への特典は特にありませんが、機械、電気、建築を学ばれた校友の皆様には、最先端の鉄道技術を学ぶ機会として、あるいは趣味を深める場として、講座をご案内いたします。

最新の情報は、<http://www.LRT.co.jp/kougakuin/> をご覧下さい。トピックス講座は次々追加となりますので、ご期待下さい。お問合せは、受付窓口の（株）ライトレール（メール：info@LRT.co.jp、電話：03-5985-1131）へご連絡下さい。

講座番号	講座名	第 2 期	第 3 期
1	総論	済み	2014 年 4～6 月
2	鉄道の活躍への期待		7～9 月
3	鉄道線路		10～12 月
4	鉄道車両（ハード面）		2015 年 1～3 月
5	鉄道車両（ソフト面）		4～6 月
6	鉄道の運行計画		7～9 月
7	鉄道の運行管理	2014 年 4～6 月	10～12 月
8	鉄道の技術開発	7～9 月	2016 年 1～3 月

※各講座 4～6 回、受講料 8,000～12,000 円。

アンケートのお願い

校友会活動の改善と活性化を図るため、皆様のご意見をお聞かせください。（改善すべき点、このような活動はよい、こんなことをしてほしいなど、できるだけ具体的に教えてください）

- 1) 校友会活動全般について
- 2) 校友会報について
- 3) 校友会ホームページについて
- 4) その他のご意見ご要望

広報部からのお知らせ

● あなたの会社や製品を紹介しませんか!(広告募集)

本誌は、日本全国で活躍している工学院大学の卒業生を中心に、約6万7千人に配布しています。貴社の活動や製品・サービスを6万7千人に紹介してみませんか。



1. 募集対象： 企業、組織、団体などの広告宣伝など
2. 掲載誌： 工学院大学校友会報 Vol.136
3. 発行部数： 約67,000部
4. 主な配布先： 工学院大学・同附属高等学校・中学校の卒業生、卒業生のご父兄、現任教員、学園関係者、監督官庁など
5. 発行予定日： 2015年4月25日予定
6. 掲載料： 第2表紙16万円/頁、本文内12万円/頁、6万円/半頁（全頁カラー）
7. 募集締切り： 2015年1月15日
8. 出稿原稿： MO、EPS、PDFなど。詳細はご相談ください。
9. お問い合わせ・原稿送付先： 工学院大学校友会（詳細下部）事務局宛てにお願いします

● 近況を校友会報やホームページで紹介しませんか!(記事募集)

広報部では、校友のみなさんの活動を本誌やホームページを使ってお手伝いします。支部、同窓会、同期会主催のイベント案内や参加者募集、楽しかった近況など、気軽にお知らせください。また、校友会員がお書きになった書籍などもご紹介しますので、ご連絡ください。

ご連絡は、工学院大学校友会（詳細下部）広報部宛てにお願いします。



編集後記

2013年4月1日から一般社団法人として新しいスタートを切った新生工学院大学校友会では、長嶋校友会長の「楽しい校友会を目指す」（本誌8頁）という標榜の下、校友会各部がそれぞれに、創意工夫を凝らして「校友会の楽しさ」を追求しています。本号では、田中部長の指揮の下、部員全員で校友に役立つ情報やご寄稿を集め、「読んで楽しい」会報誌づくりに腐心しました。オールカラー化や新春の集いの表紙、支部やOB会の活動紹介など「校友会の楽しさ」が伝わったでしょうか。また、本号でも学園理事長、大学学長、附属中学・高等学校校長をはじめたくさんの校友会員の方々からのご支援・ご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

今回、代議員選挙投票用紙（P.47）がとじ込んでありますので、12月1日～10日の投票では、これを切り取ってご使用ください。投票用紙の裏面は、皆様からのご意見・ご要望をお聞きするためのアンケート用紙になっていますので、アンケートにもご協力ください。

広報部では、ホームページについても、もっともっと活用してもらうにはどうしたらよいかと熱い議論を重ねています。アクセスしてくださった方々がどのような項目に興味を持たれているかも調査しました。調査結果を基に、内容の充実と使い勝手の良いページ作りに活かした改修を進めています。是非ホームページもチェックしてみてください。

一般社団法人 工学院大学校友会 校友会報 Vol.135

- 発行日 2014年4月20日
- 発行 一般社団法人 工学院大学校友会
- 住所 〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2
電話：03-3342-2064、03-3340-1649
FAX：03-3342-2035
Eメール：jimukyoku@kogakuin.or.jp
ホームページ：http://www.kogakuin.or.jp
- 編集 工学院大学校友会 広報部
部長 田中 英生（機械）
副部長 常磐 英晴（電気）、坂口 教子（機械）、吉川 重克（化学）、名取 勝敏（電気）、
笹原 克（建築）、田中 元樹（高校）、丸茂 聡（専門学校）



TOKYO URBAN TECH

工学院大学

工学院大学校友会

<http://www.kogakuin.or.jp>

